兵卒教科書

金居堂發行

258
1025

051633-000-8

特15-83

兵卒教科書

金居堂

M41

BFB-0421

特15
83

緒言

一、本書ハ陸達第百四十四號軍隊教育順次教令ニ兵卒ニ必要ナル學科ヲ蒐輯セシモノニシテ特別教育ニ屬スルモノハ記載スルヿナシ且其記載セシ事項ハ現物ニ就キ教授スベキモノヽ如キハ成ルベク之ヲ省キ講堂ニ於テ口授セザルベカラザルモノニ限ルモノトス故ニ本書ニ記載セザル事項ニシテ必要ナルモノハ實地ニ於テ又ハ術科トシテ教育スベキモノト知ルベシ

精神教育ノ如キハ兵卒ヲシテ獨リ之ヲ口述セシムルヲ以テ足レリトスベキニアラズ之ガ教育ニ任ズルモノハ百方手段ヲ盡シ其實行ヲ促サヾルベカラズ故ニ之ヲ示スヿナシ

二、本書ヲ分テ三篇トス其第一篇ハ初年兵ノタメニ編纂セシモノニシテ更ニ四章ニ分チ以テ第一期第二期第三期及第四期ニ適應セシメ其第二篇ハ二年兵第三篇ハ三年兵ノタメニ設ケタルモノトス

三、課目ノ名稱ハ教育順次教令ニ準據セリ然レ𪜈教育ニ必要ナル事項ニシテ明ニ教令ニ區分ナキモノハ類ニ依リ適當ニ加入セリ假令ヘバ休暇規則ヲ内務書摘要ニ捕虜ノ取扱ヒヲ赤十字條約大意ニ附加セルガ如シ

又在鄕軍人心得ハ教令中記載ナシト雖𪜈必要ナルヲ以テ之ヲ添附ス

11 12 23
内交

兵卒教科書目次

第一篇

第一章

勅諭　一
讀法　二
各兵種識別及性能　四
團隊編成ノ概要　七
上官ノ官姓名　七
武官ノ階級　九
服制　一一
勳章ノ種類及起因　十
軍隊内務書ノ摘要　十一
い服從は起居ノ定則に檢査ろ尊稱及稱呼は酒保ノ定則と呼集ノ定則ほ外出ノ定則へ　十二

ノ心得　ち室内物品装置ノ定則　り患者ノ心得　二十一
陸軍禮式摘要
い総則　ろ室内ノ敬禮　は室外ノ敬禮　二十五
陸軍刑法及懲罰令ノ摘要　二十六
武器器具被服装具ノ名稱装法及手入法
い武器　ろ被服装具　三十三
歩兵操典摘要　三十四
野外要務令ノ摘要
い地形識別　ろ兵語　は徴候　に傳令　ほ警戒
勤務　へ行軍　と宿營　ち給養　り彈藥補充　五十一
射撃
い射學理　ろ距離測量　は射撃演習ノ區分　に
射手ノ等級　ほ射撃場ニ於ケル警戒法　へ射撃
ノ効力　と射撃徽章

第二章

衛兵勤務　五十七
赤十字條約ノ大意　五十九
救急法ノ概要　六十
軍隊内務書ノ摘要　六十九
い休暇　ろ使役ノ定則
陸軍禮式摘要　七十一
い歩哨ノ敬禮　ろ儀式
器具ノ名稱使用法及尺度　七十三
工作　七十四

第三章

野外要務令摘要　七十八

第四章

野外要務令摘要　七十八

目次

射撃教範摘要　八十二
第貳篇
勅諭　八十四
讀法　八十九
軍隊内務書ノ摘要　九十一
陸軍刑法及懲罰令ノ摘要　九十五
野外要務令ノ摘要　九十七
い鐵道輸送　ろ船舶輸送　は憲兵ニ對スル心得
射撃教範摘要
第三篇
在鄕軍人心得　九十八
徴集狀令ノ雛形　百八

終

帽

近衛師團ノモノ

近衛師團ノモノ

一般ノモノ

一般ノモノ

軍衣

將校用

下士兵卒用

將校相等官ノ軍衣ハ肩章星章及線並釦ハ銀色

肩章

大將　中將　少將　大佐　中佐　少佐　大尉　中尉　少尉

准士官　曹長　軍曹　伍長　上等兵　一等卒　二等卒　一年志願兵

上等兵ハ階級ニ在ルモノヲ示ス

襟部徽章

各部附下士ノ軍衣ノ釦ハ白銅ニシテ肩章ノ星章及線ハ銀色各部附卒ノ肩章ノ星章ハ白

士官候補生
主計候補生
見習医官
見習藥劑官
見習獸医官

豫後備役見習士官
主計生及豫後備役見習主計
軍醫生及豫後備役見習医官
藥劑生及豫後備役見習藥劑官
獸医生及豫後備役見習獸医官

附（後備隊ヲ除ク）隊

40　40

附　後備隊

VI　VII

附　國民軍

I　2

將校相當官及各部附下士卒ノ襟章ハ銀色ニシテ地色ハ各兵科各部共定色ヲ用フ

特甘
44

兵卒教科書

第一篇

第一章　勅諭

一　勅諭トハ如何

天皇陛下ヨリ軍人ヘノ御諭デアリマス

二　勅諭ノ五箇條トハ如何

一、軍人ハ忠節ヲ盡スヲ本分トスベシ　一、軍人ハ禮儀ヲ正フスベシ　一、軍人ハ武勇ヲ尚ブベシ　一、軍人ハ信義ヲ重ズベシ　一、軍人ハ質素ヲ旨トスベシノ五ヶ條デアリマス

三　忠節トハ如何

天皇陛下ノ御爲メニ平時ハ能ク上官ノ命令ヲ守リ勤務演習等ニ勉强シ戰時ニハ生命ヲ捨テ、働クヿヲ云ヒマス

四　禮儀トハ如何ナルヿヲ云フカ

上下ノ區分ヲ正シ人ヲ敬ヒ尊ブヿヲ云ヒマス

五　武勇トハ如何

膽魂ヲ据ヘ敵前ニ於テ勇氣ヲ顯ハスヿデアリマス

六　信義トハ如何

自分ノ言ヒタルヿヲ行ヒ自分ノ勤ムベキヿヲ盡スヲ云ヒマス

七　質素トハ如何

華美ヲ好マズ驕リニ流レズ儉約スルヿヲ云ヒマス

八　勅諭五ケ條ヲ行ハンニハ如何ニセバ可ナルカ

一ツノ誠心ガ大切デアリマス

讀法

一　讀法トハ如何

軍人ノ守ルベキ掟デアリマス

二　誠心ヲ本トシ忠節ヲ盡シ不信不忠ノ所爲アルベカラザルヿトハ如何ナル義カ

誠ノ心ヲ本トシテ天皇陛下ヘ忠節ヲ盡クシ誠デナヒコトヤ忠義デナイシワザガアツテハナラント云フヿデアリマス

三　長上ニ敬禮ヲ盡クシ等輩ニ信義ヲ致シ粗暴倨傲ノ所爲アルベカラザルヿトハ如何ナル義カ

上ノ人ヲ敬ヒ朋友ニ誠ヲ盡シアラヒヿヤ驕慢ワザガアツテハナラント云フヿデアリマス

四　長上ノ命令ハ其事ノ如何ヲ問ハズ直ニ之ニ服從シ抗抵干犯ノ所爲アルベカラザルヿトハ如何ナル義カ

上ノ人ノ言ヒ付ケハ其事ガドヲデアロートモ直グ樣之レニ從ヒサカライ背イテハナラント云フヿデアリマス

五　膽勇ヲ尙ビ軍務ニ勉勵シ恐怯柔懦ノ所爲アルベカラザルヿトハ如何ナル義カ

勇氣ヲ一番ニ尙ビ軍隊ノ務メニ骨ヲ折リ臆病ヤナマケテハナラント云フヿデアリマス

六　血氣ノ小勇ニ誇リ爭鬪ヲ好ミ他人ヲ侮慢シ世人ノ厭忌ヲ來ス等ノ所爲アルベカラザルヿトハ如何ナル義カ

若盛リノ勇氣ニ自慢シ爭ヒヲ好ミ他人ヲ悔リ世人カラ嫌ル、樣ナ事ガアツテハナラヌト云フヿデアリマス

七　道德ヲ修メ質素ヲ主トシ浮華文弱等ニ流ルヽノ所爲アルベカラザルコトハ如何ナル義カ

ヨキ行ヒヲナシ質素ナヿヲ重トシテウワベノ飾リヤカヨワキ風ニ流ルシワザガアツテハナラヌト云フヿデアリマス

八　名譽ヲ尙ビ廉耻ヲ重ンジ賤劣貧汚ノ所爲アルベカラザルヿトハ如何ナル義カ

ヨキ評判ヲ尙ビ耻ヲ知リ賤シキヿヤ汚ハシキシワザガアツテハナラヌト云フヿデアリマス

各兵種識別及性能

一　各兵種ハ如何ニシテ識別スルヤ

主ニ襟章ト肩章トニテ區別シマス

襟章ノ色ハ憲兵科ハ黑、歩兵科ハ緋、騎兵科ハ萠黃、砲兵科ハ黃、工兵科ハ鳶、輜重兵科ハ藍、經理部ハ銀茶、衛生部ハ深綠、軍樂部ハ紺青デアリマス、肩章ハ各兵（歩、騎、砲、工、輜重、憲兵）ハ線章ガ金色、各部（經理、衛生、獸醫軍樂部）ハ線章ガ銀色デアリマス

二　憲兵ハ如何ナルモノカ

軍事ノ警察官デアリマス

三　歩兵ハ如何ナルモノカ

徒歩ニテ小銃ヲ用テ如何ナル所デモ跋涉シ戰鬪シ得ルモノデアリマス

四　騎兵ハ如何ナルモノカ

馬ニ乘リ主トシテ搜索警戒ノ勤務ニ任ズルモノデ戰鬪ニアリテハ馬ノ衝力ト刀槍ヲ以テ戰ヒ時トシテハ下馬シ騎銃ヲ以テ戰フコトモアリマス

五　野砲兵及ビ山砲兵トハ如何ナルモノカ

大砲ヲ用ヒ遠方ヨリ射擊スルモノデアリマス

六　重砲兵ハ如何ナルモノカ

砲臺ヲ守リ巨砲ヲ以テ戰鬪スルモノデアリマス

七　工兵ハ如何ナルモノカ

防禦工事ヲナシ軍橋ヲ架シ其他交通路ヲ築キ又ハ種々ノ破壞作業等ヲナスモノデアリマス尙ホ電信電話ノ架設鐵道ノ築設運行モシマス

八　輜重兵ハ如何ナルモノカ

軍隊ノ必要品ヲ運搬スルモノデアリマス

九　經理部ハ如何ナルモノカ

會計事務ヲ取扱フモノデアリマス

十　衛生部ハ如何ナルモノカ

軍隊ノ患者傷者ノ治療ヲナスモノデアリマス

十一　獸醫部ハ如何ナルモノカ

馬ノ療治ヲナスモノデアリマス

十二　軍樂部ハ如何ナルモノカ

軍樂ヲ奏スルモノデアリマス

團隊編制ノ概要

一　師團ニアル團隊如何

通常ハ歩兵二旅團、騎兵一聯隊、野砲兵一聯隊、工兵一大隊、輜重兵一大隊デアリマス

二　歩兵ハ如何ニ編制セラルヽヤ

旅團ハ二聯隊、聯隊ハ三大隊、大隊ハ四中隊ヨリナリマス

上官ノ官姓名

第師團長ノ官姓名如何

歩兵第旅團長ノ官姓名如何

歩兵第聯隊長ノ官姓名如何

所屬大隊長ノ官姓名如何

所屬中隊長ノ官姓名如何

中隊附中少尉準士官下士ノ官姓名如何

武官ノ階級

一　將校トハ如何

將官佐官及尉官ヲ總稱シマス

二　將官トハ如何　大將、中將、少將

三　佐官トハ如何　大佐、中佐、少佐

四　尉官トハ如何　大尉、中尉、少尉

五　將校相當官トハ如何

經理部、衛生部、獸醫部及軍樂部ノ諸官ニシテ將校ニ相等スルモノデアリマス

六　準士官トハ如何

特務曹長ノ如キモノデアリマス

七　下士トハ如何

曹長軍曹伍長ノ如キモノヲ云ヒマス

八　上長官トハ如何

佐官及同相當官ヲ云ヒマス

九　士官トハ如何

尉官及ビ同相當官ヲ云ヒマス

十　飾緒トハ如何

參謀官及將官ガ正裝シタルトキノ肩ニ懸ケタル金色ノ繩形ノモノデアリマス

十一　高等官衛副官ノ懸章トハ如何

週番士官ノ用ユル懸章ノ如キモノデ黃色ノモノデアリマス

服制

一　軍服ニテ階級ヲ見別ルニハ何ニ依ルカ

肩章ニテ見別ケマス、外套ヲ眼用シタリモ肩章ニテ見分ケマス

兵

二等卒ノ肩章

黃絨製　星章一

一等卒ノ肩章

卒

上等兵ノ肩章

下

伍長ノ肩章

金線一條
眞鍮製　星章一

士

軍曹ノ肩章

曹長ノ肩章

準士官ノ肩章

將

少尉ノ肩章

中尉

大尉

少佐

中佐

大佐

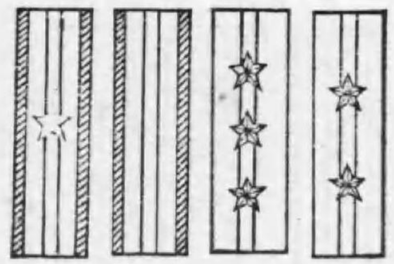
少將

中將

大將

校

（首標ニ附圖ヲ示ス）



金線三條

金線三條

二　見習士官士官候補生ヲ見別ルニハ何ニ依ルカ

見習士官ハ曹長ト同ジ服ニテ右襟ニ金色ノ星章ヲツケマス、士官候補生ハ階級相當ノ服ヲ着シ右襟ニ金色ノ星章ヲツケマス

勳章ノ種類及起因

一　勳章ハ如何ナル者ニ賜ハルカ

國家ニ對シ功績ヲ顯ハシタ人ニ賜ヒ其功名ヲ表スルモノデアリマス

二　勳章ノ種類如何

大勳位菊花章、旭日章、瑞寶章、金鵄勳章、寶冠章ノ五種デアリマス

三　旭日章ハ如何ナルモノニ賜ハルカ

國家ニ對シ勳功アル者ニ賜ハルモノデアリマス

四　旭日章ハ如何ニ分ツカ

勳一等旭日桐花章、勳一等旭日章、勳二等旭日章、勳三等旭日章、勳四等旭日章、勳五等旭日章、勳六等旭日章、勳七等桐葉章、勳八等桐葉章デ

五　瑞寶章ハ如何ナルモノニ賜ハルカ

國家ニ勳勞アルモノニ賜ハルモノデアリマス

六　瑞寶章ハ何等アルカ

勳一等ヨリ勳八等

七　金鵄章ハ如何ナルモノニ賜ハルカ

武功拔群ノモノ假令バ敵ノ軍旗ヲ奪ヒ取ルモノ又敵中ヲ通過シテ使命ヲ全フシタルモノ又ハ長官ノ危急ヲ救ヒタルモノ等ニ賜ハルモノデアリマス

八　金鵄章ハ何級ナルカ

功一級ヨリ功七級

九　寶冠章ハ如何ナルモノニ賜ハリ何等アルカ

女ニ賜ハルモノデ勳一等ヨリ勳八等

十　從軍記章ハ如何ナルモノニ賜ハルカ

外國トノ戰爭ニ從事シ全勝ヲ得タル紀念ニ賜ハルモノデアリマス

軍隊內務書摘要

い　服從

一　上官ニ對シ命令ノ原因主旨等ヲ詰問スルヿヲ得ルカ

詰問スルヿハナリマセン、只命令ノ明フカナラヌ場合ニ愼ンデ問フモ妨ゲアリマセン

二　新タニ受クル命令ト以前ノ命令ト違フ片ハ如何ニスルカ

一應其趣キヲ申述ベテ行ヒマス

三　罰ヲ受ケ不當ト思フ片ハ如何スルカ

決シテ辨解スルヿナク必ラズ之ニ服從シマス

四　上官ノ取扱酷ト考フル片ハ如何スルカ

決シテ爭ヒ論ズルヿナク徐ニ順序ヲ經テ申出デマス○勤務中ナレバ終テ後申出デマス

ろ　尊稱及稱呼

一　尊稱ハイツ用ユルカ

下タルモノ上タルモノニ對シ直接間接ニ論ナク其人ヲ稱呼スル片用ヰマス

二　尊稱ノ區別如何

天皇、皇后ニ對シ奉リテハ陛下、皇太子、皇太子妃、及其他ノ皇族ニ對シ奉リテハ殿下、將官ニハ閣下上長官以下ニハ殿

三　直接ニ其人ニ對シテハ如何ニ稱呼スルヤ

皇族ニハ單ニ殿下將官ニハ何官閣下上長官以下ニハ何官殿ト云ヒマス

四　他人ニ對シテハ如何ニ稱ルカ

皇族ハ某親王殿下○將官ハ某何官閣下○上長官以下ニハ某何官殿ト云ヒマス

五　職名ニテ稱呼スルモ妨ナキヤ

師團長閣下聯隊長殿等ト云フモ妨ゲアリマセン

は　起居ノ定則

一　毎朝起床後如何スルカ

衣袴ヲ着ケ點呼ヲ受ケマス○若シ病氣デアレバ給養班長ニ申出マス

二　日朝點呼後ハ如何スルカ

窓戸ヲ開キ毛布敷布ヲ振ヒ叮嚀ニ疊ミ寢臺ノ上ニ置キ顏ヲ洗ヒ武器ノ手入ヲナシ被服ヲ整頓シマス

三　午食ノ後ハ如何スルカ

毛布敷布ヲ展ベ臥床ノ準備ヲナシオキマス

四　舍内當番毎朝食後如何スルカ

直ニ食器ヲ片付ケ舍内掃除ヲ致シマス

五　舍内掃除ノ後ハ如何ナル𠀋ニ注意スルカ

一切不潔ニナラヌ樣ニ氣ヲ付ケマス○決シテ物品ヲ取リ亂シ又定メラレタル場所ノ外ニ持チ行ク𠀋ハナリマセン

六　自由ニ寢臺ニ就キ又ハ寢臺ニ腰ヲ掛ケ得ルカ

ナリマセン只衛兵等夜間勤務ヲナシタルモノ又ハ暑中等殊ニ許サレタル場合ハ妨ゲアリマセン

七　室内ヲ靜謐ナラシムル注意如何

歌ヲ謳ヒ又ハ高聲ニテ雜談セザル𠀋ハ勿論食事ノ際ニハ殊更靜ニシマス

八　煙草ハ何處デ吸フカ

舍内デハ定メラレタル場所デ吸ヒマス舍外デハ彈藥庫、武器庫、彈藥詰替所、薪炭庫、被服庫等火ノ恐レアル處ノ近傍ノ外吸ヘマス

九　舍内ヲ清潔ニスル爲メ禁ゼラレタル𠀋如何

室内又ハ廊下ニ痰ヲ吐キ煙草ノ吸殼ヲ棄テ釘ヲ打チ又ハ張紙ヲドヲシテハナリマセン○其他窓、机、腰掛、煖爐等ヲ汚シ傷ケ落書ヲナシ又ハ窓ヨリ物ヲ捨テ窓ノ椽ニ物ヲ乾シ或ハ物ヲ切ルコトモナリマセン

十　武器及諸物品ノ手入ハ何處ニテナスカ

定メラレタル場所ニ限リマス

十一　用事ノナキモノ行キテ惡シキ所如何

洗濯場、庖厨、浴室、病院、他中隊ノ兵舎、諸工場集會所、兵器分廠諸倉庫等デアリマス

十二　大小便ハ如何スルカ

設置シアル圊厠ノ外ナリマセン

十三　舍内當番消燈號音ニテ如何スルカ

廐下ノ火ノ外消シマス

十四　煖室爐ニハ如何ナル注意ヲ要スルカ

火ノ用心ヲ大切ニシ消燈後ハ其餘焰ニ注意シマス又蓋ヲ取リ炭酸氣ヲ室内ニ入レテハナリマセン

十五　如何ナル物品デモ營内ニ持來リ可ナルカ

許可ナキ物品ハ決シテ持チ來ルヿハナリマセン

十六　給養セラレタル諸物品ヲ破損紛失シタル片ハ如何スルヤ

直チニ給養班長ニ申シ出デマス事柄ニ依テハ自償スルノミナラズ罰セラルヽモノ

デアリマス

十七　舍内ニ入ル場合如何スルカ

入口ニテ靴ノ泥土ヲ叮嚀ニ取リマス

十八　衣服ノ清潔法ハ如何スルカ

常ニ清潔ニ洗濯シマス襦袢ハ殊ニ清潔ニセヲバナリマセン

十九　身体ノ清潔法ハ如何スルカ

顔面、手、足ヲ能ク洗ヒ齒ヲ磨キ爪ヲ剪リ總ベテ身体ヲ清潔ニシマス殊ニ頭髮ハ短ク剪リマス

に　檢査ノ定則

一　武裝檢査トハ如何

武裝ヲ齊一ナラシムル檢査ヲ云ヒマス

二、細密檢査トハ如何

各隊長、兵器、器具被服其他ノ小部分ニ至ル迄綿密ニ其清潔及修理ノ整否ヲ檢査スルヿヲ云ヒマス

三　清潔檢査トハ如何

毎土曜日午後中(少)尉若クハ特務曹長ガ下士兵卒ノ居室兵器器具被服其他諸物品ノ清潔及修理、整否ヲ檢査スルヲ云ヒマス

ほ　外出ノ定則

一　兵卒外出ハ如何ナル日ニ許サルヽヤ

日曜其他休業日ハ勤務ニ當ルモノヲ除キ朝食後ヨリ夕食時迄許サレマス水曜日午後ハ演習濟ヨリ用辨ノ爲メ夕食前迄許サルヽモアリマス

二　臨時ニ外出ヲ許サルヽアリヤ

情實止ムヲ得ザル確證アルモノハ四十八時間以内許サルヽモアリマス

三　外出ノ服裝ハ如何

第二種帽ヲ冠ムリ絨衣袴ヲ着シ銃劍ヲ帶ビ軍隊手牒ヲ持チテ出マス又臨時外出ノ件ニハ定規ノ木札ヲ携ヘマス○外套ヲ着タ場合ニハ帶革ヲ其上ニ締メマス又外套ヲ持ツ場合ニハ卷イテ左肩ノ上ヨリ右脇下ニ掛ケマス○又雨天泥濘ノ場合ニハ脚胖ヲ袴

上ニシマス

へ　酒保ノ定則

一　酒保ハ何ノ爲メニ設ケテアルカ

良質ニシテ廉價ナル日用品及飲食物ヲ購求セシムルタメデアリマス

二　酒保場内ニ於ケル兵卒ノ注意スベキヿ如何

靜粛ヲ旨トシ粗暴ノ擧動其他吟歌等ハ一切嚴禁デアリマス

三　酒保ニハ如何ナルモノデモ就クヿヲ得ルカ

犯罪取調中、所罰中、衛兵勤務中ノモノ及ビ病氣ノモノハデキマセン

と　呼集ノ心得

一　非常號音ニテ如何スルカ

現在ノ着服ニ脚胖ヲ袴上ニ穿チ外套ヲ負ヒ銃器ヲ携帶シ舍前ニ整列シマス

二　臨時呼集號音ニテ如何スルカ

軍裝(夏期ハ夏服袴ニテ)飯盒水筒雜嚢ヲ除キ背嚢ニハ雜具袋ノミヲ收容シ舍前ニ整列シマヌ但シ新兵入隊後三ケ月間ハ背嚢ヲ負ハズ銃嵜及外套ノミヲ携ヘ脚胖ヲ袴上ニ着ケマス

三　火災號音ニテ如何スルカ

其時ノ着用被服ノ儘武器ヲ取ラズ舍前ニ整列シマス

四　凡テ呼集ニハ如何ナルヿヲ心得フベキカ

専ラ沈着静粛ヲ主トシ殊ニ夜間ハ混雑シ易ケレバ各自無用ノ言語ヲ廃シ軽挙ナル動作ヲナシテハナリマセン

ち　室内物品装置ノ定則

兵器被服装具器具等ノ装置法ハ左図ノ如シ

備考　但シ夏期ハ冬期ノ被服ト置換ユルモノトス

り　患者ノ心得

一　診断ノ種類及其取扱ハ如何

就業、半休、全休、入院デアリマス、就業トハ当日ノ業ニ就カシムルモノ半休トハ舎内ニ休息セシムルモノ全休トハ休養室ニ入リ寝臺ニ就カシムルモノ入院ハ衛戍病院ニ收容セラルヽモノヲ云ヒマス

二　病氣ノ等差及其取扱ハ如何

一等症二等症三等症デアリマス一等症ハ公務上カラ起リタ病氣デ二等症ハ自然ニ起リタ病氣デ三等症ハ自分ノ不養生又ハ不品行ヨリ生ジタ病デアリマス○入院シタ場合ニハ二等症三等症ハ半分減給セラレマス

陸軍禮式摘要

（兵卒單獨ノ敬禮ノミヲ掲グ）

い　總則

一　敬禮ハ何ノ爲メニ行フカ

尊敬ノ意ヲ致シ服從ノ心ヲ表スルモノデアリマスカラ心ノ中カラ尊敬シテ敬禮ヲセヲバナリマセン

二　敬禮ハ定制ノ服ヲ着ケタ人ニ限ルカ

其着服ノ如何ヲ問ハズ敬禮ヲ行フモノデアリマス

三　距離遠隔又ハ夜間等ノ爲メ上下ノ識別ニ困難ナル場合若クハ同級者ニアリテハ如何ニ敬禮スルカ

先後ヲ論ゼズ互ニ競フテ敬禮ヲ行ヒ人ニ後ルヽヲ耻ト致シマス

四　君ガ代ノ奏樂ヲ聞クトキハ如何

直ニ姿勢ヲ正シマス

五　敬禮ハ陸軍軍人ニ限ルカ

海軍軍人及外國ノ陸海軍人ニモ同樣ノ敬禮ヲ致シマス

六　軍人ノ拜神ノ敬禮如何

總ベテ室ノ内外ヲ論ゼズ室内ノ敬禮ヲ致シマス

ろ　室内ノ敬禮

一　室内外ノ區別如何

室内トハ居室、事務室、面會所等ヲ云ヒ廐下及ビ庖厨等ハ室外デアリマス

二　室内ニ入ラントスルニハ如何

先ヅ戸外ニテ帽ヲ取リマス○武器ヲ手ニ持チタルトキハ帽ハ取リマセン

三　室内ニ將校來ルトキハ如何スルカ

最初之レヲ見タルモノハ「直レ」ト呼ビ其室ニ居ルモノハ皆姿勢ヲ正シマス

四　下士室内ニ來ルトキハ如何スルカ

腰掛ヲ離レテ立チ姿勢ヲ正シマス

五　上官ヨリ公事ヲ談ゼラルヽトキハ如何スルカ

腰掛ヲ離レテ立チ姿勢ヲ正シマス

は　室外ノ敬禮

一　軍旗、所屬團隊長及所屬中隊附士官ニハ其他ノ上官ト敬禮法ニ差違アルヤ

停止スルノガ違ヒマス

二　上官窓ヨリ外見シアル場合ニ其前ヲ過グルトキハ如何スルカ

敬禮ヲ行ヒマス

三　窓ヨリ外ヲ見テ居ルトキ上官其前ヲ通ルトキハ如何スルカ

敬禮ヲ行ヒマス

四　軍隊ニ對シ敬禮ヲ行フ注意如何

其隊長ニ敬禮ヲ行ヒ其隊ニハ注目スル許リデアリマス

五　軍人ノ葬儀ニ逢フ如何ニスルカ

其死シタル人ノ階級ニ應ズル敬禮ヲ行ヒマス又假令死者下級デモ敬禮ヲ行ヒマス

六　乘車シタルトキ上官ニ逢フトキハ如何スルカ

乘車ノ儘姿勢ヲ正シテ敬禮ヲ行ヒマス

七　自轉車ニ乘ルトキ上官ニ逢フ如何スルカ

單ニ注目ニ換フルコトガデキマス

八　物品ヲ持チ右手ヲ擧グル能ハザルトキ又ハ擔荷シアルトキノ敬禮如何スルカ

擧手ハシマセヌ姿勢ヲ正シテ注目シマス

九　上官ト共ニ步行スルトキハ如何スルカ

成ルベク其左側ヲ步行シ若シ多人數ナルトキハ兩側若クハ後方ヨリ行キマス○案內ヲスルトキハ前ニ立ツテ往キマス

十　上官ノ後方ヨリ上官ヲ行キ過ギントスルトキハ如何スルカ

先ニ行ク許可ヲ請ヒ然ル後通過致シマス

十一　二人以上共ニ端船等ニ乘組ムトキハ如何スルヤ

下級者ヨリ先ニ乘リマス

陸軍刑法及懲罰令ノ摘要

一　如何ナルモノ刑法ニヨリ罰セラルヽヤ

上官ニ抵抗侮慢スルモノ或ハ逃亡六日ヲ過グルモノ或ハ身躰ヲ毀傷シ兵役ヲ免レントスルモノ或ハ暴行ヲ爲スモノ等デアリマス

二　陸軍刑法ニ依リ處分セラレタルモノハ如何ナル處罰ヲ受クルヤ

重キハ死刑輕キハ禁錮ニ處セラレマス

三　如何ナルモノハ懲罰令ヲ以テ罰セラルヽヤ

軍人ノ反罪ニシテ其情狀輕キモノ酩酊シテ事ヲ省セザルモノ病氣事故ニ托シ演習ヲ免レントスルモノ、服裝法ニ違フモノ、敬禮ヲ欠クモノ、官物ヲ毀損スルモノ規定ノ時刻ニ歸營セザルモノ等デアリマス

四　懲罰令ニ觸ルヽモノハ如何ナル處分ヲ受クルヤ

重キハ營倉ニ錮シ寢具ナク只飯水及塩ヲ給セラルヽノミニシテ給料ノ十分ノ八ヲ減ゼラレ或ハ輕營倉トテ營倉ニ錮シ給料ノ十分ノ六ヲ減セラレ又塲合ニヨリ若役ニ換ヘ十分ノ二ヲ減給セラレマス

五　兵卒ノ屢々禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ懲罰ノ處分ヲ受クルモ容易ニ改悛ノ狀ナキモ

ノハ如何ニ處分セラルヽヤ

陸軍懲治隊ニ收容セラレマス

六　懲治隊ニ收容セラレタル者ハ如何ナル取扱ヲ受クルヤ

懲治卒ト稱ヘ演習時間内ニモ勞役ニ就カシメラレ外出休暇ヲ許サセマセン

武器、器具、被服器具ノ名稱裝法及手入法

い　武器、器具

一　歩兵ノ携帶スル武器ハ何ト稱スルヤ

三八式歩兵銃デアリマス

二　三八式歩兵銃ヲ大別スレバ如何

銃身、銃尾機關、銃床、銃鍔、銃劍ノ五部ニ分チマス

三　銃身ニ就テノ名稱如何

照星、照星頂、照尺、表尺、遊標、照門、銃口、銃腔、腔線、藥室

四　銃尾機關ノ名稱

尾筒、引金、遊底、遊頭、抽筒子、蹴子、圓筒、槓杆、擊莖、擊莖駐脚、彈倉、受筒鈑、彈倉發條、彈倉底鈑、引金

五　銃床ニ就テノ名稱

銃把、床嘴、床尾踵、縱溝、木被

六　鈑鍊名稱

上帶、下帶、用心鐵、床尾鈑、床尾飜鐶、尾筒長短駐螺、槊杖

七　銃劍ノ名稱如何

劍身、駐梁溝、劍拇、鍔、龍鼻、鞘、鯉口、彈鑽子

八　附屬具ノ名稱

藥室掃除器、轉螺器、銃口蓋、洗管、負革、彈藥盒（前盒、後盒）

九　携帶豫備品ニハ何々アルカ

擊莖、擊莖發條、抽筒子、蹴子

十　普通ノ手入法如何

塵埃ヲ掃ヒ遊底ヲ開キ銃身及尾筒ノ内外ヲ油ニ浸シタル軟布ニテ拭ヒ僅カニ油ヲ塗リマス表尺ハ油ニ浸シタル片布ヲ以テ拭ヒタル後樞軸ニハ適宜ニ油ヲ注ギマス

○受筒鈑ハ外部ヨリ之ヲ拭ヒ適宜ニ油ヲヒキマス○遊底ハ分解セズ外面ヲ拭ヒ油ヲ

ヌリマス○銃床銃劍及ビ鉸鍊ハ乾キタル布ヲ以テ拭ヒマス○雨雪又ハ塵埃ヲ蒙リタル場合ニハ命令ニヨリ受筒鈑ヲ脱シ又遊底ヲ分解シテ充分ニ掃除シマス

十一　發射後ノ手入法ハ如何

時間ヲ經過スレバ手入困難ナレバ成ルベク速ニ手入ニ着手シマス先ヅ遊底ヲ除キ槊杖ノ一端ニ洗管ヲ接ケ布片ヲ以テ銃口ニ入レ僅ニ光輝ノ生ズル迄上下數回ヲ徐ニ行ヒ次ニ油ヲヌリマス膛内ニ塵埃多キ片ハ油ニ浸シタル布片ヲ以テ拭ヒ後前ノ如クシマス○藥室ノ後端遊頭室蹴子溝及ビ抽筒子溝ハ藥室掃除器ニ布片ヲ卷キ徐カニ掃拭シ然ル後僅カニ油ヲヌリマス遊底ハ普通分解シテ掃除ヲナスモ遊頭蹴子及擊莖ハ殊ニ丁寧ニ手入ヲナシマス但シ確實ニ火藥瓦斯銃尾機關内ニ侵入セザリシコトヲ認メ得タルトキハ只遊頭ノミヲ分解シ掃除スル事ガ出來マス

十二　手入ニ就テノ注意如何

遊頭内部不潔ナル時ハ大切ナル擊莖頭部ヲ青蝕スルノ基トナル故殊ニ氣ヲ注ケマス圓頭内部及藥室モサビ易ケレバ注意セヲバナリマセン○萬一銹ヲ生ジタル時ハ油ニテ取リ去リマス決シテ他ノ物ニテ磨キテハナリマセン

表尺脚逆鉤等擦レ合フ部分及手入ヲ終リタル鐵具及爆子ニ油ヲ塗リマス○地上ニ落セシ洗矢布片等ト砂塵ヲ能ク除キテ用イマス○油ヲ塗ルベキ部分ハ先ヅ充分ニ掃除シ決シテ汗手ヲ以テ握リテハナリマセン

十三　遊底ノ分解結合ノ順序如何

分解ハ第一遊頭、第二擊莖駐螺、第三副鐵、第四擊莖及ビ擊莖發條第五擊鐵ニシテ結合ハ反對デアリマス

十四　遊底分解結合ノ注意如何

擊莖駐螺發條及副鐵内緣ノ缺所ヲ破損セザルタメ指頭ヲ以テ强ク發條ヲ壓シ捩回スルヿニ注意シマス○擊莖駐螺ノ位置ハ擊莖駐螺ノ下面ト副鐵ノ上面ト概子密接シ螺子頭溝ハ概子副鐵溝ト平行シ駐螺發條ハ副鐵内緣ノ缺所ニ入ラヲバナリマセン○擊鐵及ビ副鐵ヲ結合スルニハ○印ノ刻印ヲ合スヿニ注意セヲバナリマセン

十五　槊杖ヲ以テ手入スル片ノ注意如何

銃腔ヲ手入スルニハ過度ニ力ヲ加フヿナク且ツ腔線ノ轉回ニ準シ上下シマス○遊底ノ分解ニ使用スルニハ槊杖ヲ垂直ニ保チ遊底ノ方向ト一致サセヲバナリマセン○槊杖ヲ裝入スルニハ過激ニ投入スルヿナク槊杖頭ヲ保持シタル儘徐ニ之ヲ裝入シマス

十六　携帶器具ノ名稱如何

方匙、十字鍬、手斧、畳鋸

十七　器具ノ手入法如何

塗料ノ剝脱ザル様ニ叮嚀ニ拭ヒオクベシ但シ油氣ヲ用イテハナリマセン鑢ハ殊更前ノ一ヲ注意シマス

十八　彈藥盒等褐色革具ノ手入法如何

刷毛或ハ毛布ノ片ヲ以テ表裏面ヲ拭ヒ其塵埃ヲ除去シ時々毛布ニ少量ノ脂ヲシメシ之ヲコスリマス但シ前盒ノ蓋革併ニ隔壁ハ脂ヲ多量ニ用イテハナリマセン又表皮ハ尤モ大切ナレバ強ク摩擦テハナリマセン

ろ　被服裝具

一　兵卒ニ支給セラルベキ被服ノ名稱如何

第二種帽絨衣袴、肩章共、日覆、夏衣袴、外套、略衣袴、襟布、襦袢、袴下、編上靴、短靴、卷脚袢、麻脚袢、靴下、軍隊手牒、第一種背嚢、飯盒、水筒、厚毛布、雜嚢、包布、蒲團、敷布、枕、蚊張

二　被服手入具ノ名稱如何

絨刷、靴刷、洗濯刷、磨刷、燕口袋、（櫛、鋏、錐、糸巻、糸針共）麻袋デアリマス

三　被服ノ手入法如何

絨製ノモノハ絨刷ヲ以テ能ク塵ヲ掃ヒ布製ノモノハ洗濯刷ヲ以テ洗濯ヲ爲シ靴ハ靴刷ヲ以テ泥土ヲ拂ヒ又時々塗脂ヲ行ヒ革ヲ柔軟ニシマス○破綻ハ常ニ注意シテ修理ヲナシ大破ニ至ラヌ様ニシマス○背嚢ノ黑革ハ馬油ヲヌリマス

四　軍裝ヲ爲ス塲合如何

動員部隊ニ屬スル時衛戍勤務ニ服スル時秋季演習又ハ廉アル演習ノ時其他儀式等ニモ用ヒマス

五　軍裝ノ着裝如何

第二種帽絨衣袴襟布靴ヲ用ヒ脚袢ヲ袴上ニシ水筒雜嚢ヲ携ヘ彈藥盒ヲ附着シ銃ヲ携ヘマス背嚢ニハ外套携帶器具飯盒豫備靴手旗携帶天幕ヲ附着シ時宜ニ依リ毛布ヲ附ケマス但シ隊伍ニ列セザルトキハ武器裝具ヲ携ヘズ帶劍ニテ脚袢ハ用ヒマセヌ

六　略裝ヲナス塲合如何

平素屯營内ニアルトキ及ビ操練演習ノトキハ畧裝ヲシマス

七　畧裝ノ着裝如何

畧裝ニハ左ノ區分アリ

一、背嚢ヲ負ヒ（外套豫備靴附着）器具手旗ヲ携持スベキモノハ背嚢ニ着ケ絨衣袴ヲ着用シ（夏季ニアリテハ夏衣袴）脚袢ヲ袴上ニス

二、背嚢（外套附着）ヲ負ヒ絨衣袴ヲ着シ夏季ハ（夏衣袴）脚袢ヲ袴上ニス

三、背嚢ヲ負ヒ畧衣袴ヲ着シ脚袢ヲ袴上ニス

八　夏衣袴ハ何時用ユルカ

夏衣ハ暑中着裝ニ用ユルヲ正則トスレ𪜈軍裝ニモ用イマス夏袴ハ暑中何レノ服裝トテモ用ユル「ガ」出來マス

九　外套ハ何時用ユルカ

何レノ服裝デモ雨雪ノ時又ハ防寒ノ爲メ室外ニテ着マス併シ儀式ノ場所デハ防寒ノ爲メデハキラレマセン又上官ノ居室デハ武裝シタルトキ又ハ許可ヲ得ナケレバ着ル「ガ」出來マセン

十　頤紐ハ何時用ユルカ

何レノ服裝デモ隊伍ニ列スルトキ用ヒマス

歩兵操典摘要

一　散兵ハ前進中敵ノ射擊ヲ受ケテ前進困難ナルトキハ隨意停止シテモヨキカ

命令ノナキトキハ決シテ停止シテハナリマセン

二　防禦ノトキ散兵ガ注意セヲバナラヌコトハ何カ

敵ガ近ク寄レバ寄ル程我ガ射擊ノ効力ガ增スモノデアリマスカラ次シテ周章騷イデハナリマセン假令自分一人ニナルマデモ守地ニ踏ミ止マツテ居ラヲバナリマセヌ

三　彈藥ヲ節用スルハ何ノ爲メカ

確實ナル効果アル場合ニ用ヰルタメデアリマス

四　兵卒ガ全ク彈藥ヲ消耗シ若クハ敵ノ重圍ニ陷ルトキハ如何ニスルヤ

決シテオソレルコトナク尙ホ銃劍ヲ以テ最後ノ勝ヲ占メルコトヲ努メマス

五　戰線ニ於テ負傷者アルトキハ戰友ハ之ヲ救助シテモヨキカ

命令ガナケレバ決シテ救助スルコトハ出來マセン

六　戰鬪中所屬隊ヲ失ツタトキハ如何ニスルヤ

直チニ最モ近キ戰鬪部隊ニ合シ其ノ將校若クハ下士ノ命令ニ從ツテ戰鬪シ戰鬪ガ終リタル後直チニ其ノ所屬隊ニ歸リマス

七　敵ト對戰中最モ危險ナル動作ハ何カ

敵ニ背ヲ向ケルコトデアリマス

野外要務

い　地形誠別

陰蔽地
開濶地
平坦地
波狀地
高地
丘阜
頂界線
鞍部
右岸
森林村落等見通ノ出來ヌ土地
遠ク見通シノ出來ル土地
高低ナク平ナル土地
波ノ樣ニ高低アル土地
高キ土地
高地ノ斜面ト頂上トノ界
二ツノ山ノ交ハリタル低キ所
川下ニ向ヒ其右ヲ右岸

左岸
徒渉場
渡船場
凹道
凸道
小徑
十字路
丁字路
三叉路
隘路
森林
林樣
並樹
獨立樹
市街

左ヲ左岸ト云フ
水ノ中ヲ歩イテ通ルコトノ出來ル所
船渡シノアル所
道路ノ兩側高キモノ
道路ノ兩側低キモノ
歩兵ノ通リ得ルコミチ
十ノ字ニ交ハル道
丁ノ字ニ交ハル道
三ツ股ノ道
兩側ノ通リ難キ道
森ノコト
林ノ
同ジ高サノ
一本アル
町ノゴタルモノ

村落

聚団家屋　村ノヨ

獨立家屋　二三軒集マ

鐵道線路　一軒

踏切　流車ノ通ル路

ろ　兵語

一　正面及背面トハ如何

敵ニ面シタル方ヲ正面ト云ヒ之ニ反スル方ヲ背面ト云ヒマス

二　右翼左翼トハ如何

敵ニ向テ我ガ右ノ部分又ハ左ノ部分ヲ云ヒマス

三　右側及左側トハ如何

敵ニ向テ我ガ右側若クハ左側ヲ云ヒマス

四　距離トハ如何

軍隊前後ノ距リヲ云ヒマス

五　間隔トハ如何

軍隊左右ノ隔リヲ云ヒマス

六　縦隊トハ如何

諸部隊前後ニ重ツタモノヲ云ヒマス

七　横隊トハ如何

諸部隊左右ニ並ンダモノヲ云ヒマス

八　先頭トハ如何

行進方向ニ於ケル縦隊ノ先頭ヲ云ヒマス

九　後尾トハ如何

縦隊ノ後端ヲ云ヒマス

十　前進トハ如何

進ム事ヲ云ヒマス

十一　退却トハ如何

退ク事ヲ云ヒマス

十二　攻撃トハ如何

進ンデ敵ヲ撃ツ事ヲ云ヒマス

十三　防禦トハ如何
止ッテ敵ヲ防グヿヲ云ヒマス
十四　占領トハ如何
或場所ヲ我ガモノトナスコトヲ云ヒマス
十五　追撃トハ如何
退却スル敵ヲ撃ツコトヲ云ヒマス
十六　連絡トハ如何
互ニ繋ギヲ取ルヿヲ云ヒマス
十七　敵情トハ如何
敵ノ有様ヲ云ヒマス
十八　地形トハ如何
土地ノ摸様ヲ云ヒマス
十九　任務トハ如何
ナスベキ務メデアリマス
二十　監視トハ如何

見張ヲナスヿヲ云ヒマス
廿一　警戒トハ如何
敵ニ對シ用心スルヿヲ云ヒマス
廿二　捜索トハ如何
敵情等ヲ捜ルヿヲ云マス
廿三　偵察トハ如何
敵情地形等ヲ見定メルコトヲ云ヒマス

は　方位學

一　如何ニシテ方位ヲ知ルカ
磅石、時計、北極星等ニテ知リマス
二　時計ニヨリ方位ヲ知ルニハ如何ニスルカ
時計ヲ水平ニ持チ垂直ナル物体ノ影ト短針ノ影トヲ一致サセ短針ト十二時ト記シタル文字トノ間ヲ等分シタル線ハ北ヲ指シマス
三　北極星ニ依ルニハ如何ニスルカ
先ツ大熊星ト云フ圖ノ如キ形ノ七ツノ星ヲサガシ1、2ノ星小一線上ノ約五倍ノ

所ヲ見レバ一ノ明ルイ星ガアリマス是ガ北極星デ常ニ北ノ方ニ在リマス

徵候

一　敵情ヲ知ルニハ如何ナル徵候ニヨルカ

塵埃、音響等ノ如キデアリマス

二　塵埃ニ依ル徵候如何

高クテ薄キハ騎兵高クテ濃キハ砲兵低クテ濃キハ歩兵デアリマス

三　諸種ノ音響ニ依ル徵候如何

車輛ノ音、馬ノ嘶聲、犬ノ連吠又ハ銃聲砲聲ニ依リ敵ノ集否ヲ知ラマス

四　其他敵情ヲ知ルベキ徵候ノ一二ヲ擧ゲヨ

靴跡蹄跡　宿營ノ跡等澤山アリマス

五　渡渉場ヲ知ルベキ徵候如何

通常小徑ノ河岸ニ通ジタル處河幅低カニ廣キカ河ノ出リタル所ニテ漣波ノタツ處等デアリマス

傳令

一　口上ヲ以テ命令及報告ヲ傳フルトキ傳令使ハ出發前何ヲナスヤ

必ズ復誦シマス

二　傳令使ガ出發スル時知ラヌバナラヌコトハ何カ

一　此命令ハ誰ニ屆ケルカ

二　何ノ道ヲ通ツテ行クノカ

三　速度ハ何カ

四　傳達終ツタナラバ何處ニ歸ルノカ

三　徒歩傳令使ノ速度如何

「並」ハ速歩「急」ハ駈歩ト速歩トヲ混用シ「至急」ハ脚力ノ堪ユル丈ケ駈歩ヲ行ヒマス若シ書翰ヲ傳達スルトキハ封筒ノ「十」ハ並「十十」ハ急「十十十」ハ至急ノ速ヲ用イマス

四　傳令使途中上官ニ逢フトキノ歩度ハ如何

歩度ハカヘルコトナク「傳令」ト云フテ通リマス

五　傳令使書翰ヲ掠奪ハレントス如何ニスルカ

破ツテ捨テルカ、呑ミ込ムカ又ハ銃腔ニ押込ンテ射擊シテ敵ニ渡サヌ樣ニシマス

六　傳令使ニ對スル注意如何

成シ得ル限リ援助ヲ與ヘマス

七　遞歩哨トハ如何ナルモノカ

命令及報告ノ傳達ヲ確實ナラシムル爲メ所々ニ哨所ヲ配置シ取次ギ傳達ヲナスモノデアリマス

八　傳令詞ハ如何ナル順序ニ傳達スルヤ

受信者發信者傳令詞其例ハ次ノ如クデアリマス

尖兵長殿前衛司令官命令前衛ハ何々村ニ止ル尖兵ハ何々村ノ北端ニ止リ何々村ノ方

ヲ警戒セヨ

前衛司令官殿尖兵長報告何々村南端デ敵ノ歩兵三人見マシタ

警戒勤務

一　行軍スル軍隊ハ如何ニシテ警戒スルヤ

前進ノトキハ前衛、退却ノトキハ後衛又要スレバ側衛ヲ以テ側面ヲ掩護シマス

二　前衛ハ如何ナル區分ヲ以テ前進スルヤ

騎兵尖兵、歩兵尖兵、前兵前衛本隊デアリマス

三　後衛ハ如何ナル區分ヲ以テ行進スルヤ

後衛騎兵、尖兵、後兵、及後衛本隊デアリマス

四　宿營間ノ警戒勤務ハ如何スルヤ

前哨ヲ配置シマス

五　前哨ノ區分如何

前哨、本隊前哨、中隊及前哨騎兵デアリマス

六　前哨中隊ハ夜間如何配置ヲナスヤ

「並」ハ速歩「急」ハ駈歩ト速歩トヲ混用シ「至急」ハ脚力ノ堪ユル丈ケ駈歩ヲ行ヒマス若シ書翰ヲ傳達スルトキハ封筒ノ「十」ハ並「十十」ハ急「十十十」ハ至急ノ速ヲ用イマス

四　傳令使途中上官ニ逢フトキノ歩度ハ如何

歩度ハカヘルコトナク「傳令」ト云フテ通リマス

五　傳令使書翰ヲ掠奪ハレントス如何ニスルカ

破ツテ捨テルカ、呑ミ込ムカ又ハ銃腔ニ押込ンテ射擊シテ敵ニ渡サヌ樣ニシマス

六　傳令使ニ對スル注意如何

成シ得ル限リ援助ヲ與ヘマス

七　遞歩哨トハ如何ナルモノカ

命令及報告ノ傳達ヲ確實ナラシムル爲メ所々ニ哨所ヲ配置シ取次ギ傳達ヲナスモノデアリマス

八　傳令詞ハ如何ナル順序ニ傳達スルヤ

受信者發信者傳令詞其例ハ次ノ如クデアリマス

尖兵長殿前衛司令官命令前衛ハ何々村ニ止ル尖兵ハ何々村ノ北端ニ止リ何々村ノ方

ヲ警戒セヨ

前衛司令官殿尖兵長報告何々村南端デ敵ノ歩兵三人見マシタ

警戒勤務

一　行軍スル軍隊ハ如何ニシテ警戒スルヤ

前進ノトキハ前衛、退却ノトキハ後衛又要スレバ側衛ヲ以テ側面ヲ掩護シマス

二　前衛ハ如何ナル區分ヲ以テ前進スルヤ

騎兵尖兵、歩兵尖兵、前兵前衛本隊デアリマス

三　後衛ハ如何ナル區分ヲ以テ行進スルヤ

後衛騎兵、尖兵、後兵、及後衛本隊デアリマス

四　宿營間ノ警戒勤務ハ如何スルヤ

前哨ヲ配置シマス

五　前哨ノ區分如何

前哨、本隊前哨、中隊及前哨騎兵デアリマス

六　前哨中隊ハ夜間如何配置ヲナスヤ

小哨若クハ獨立下士哨ヲ出シテ警戒シマス

七　小哨ノ配置ハ如何

下士哨若クハ歩哨ヲ出シテ警戒シマス

八　小哨ニ居ル兵卒ノ心得ベキコト如何

一　軍令ナケレバ背嚢ヲ卸シ又ハ睡眠スルコトハ出來マセヌ帶革水筒ハ常ニ身ニツケテオラヌバナリマセヌ

二　任務ヲ受ケタルトキカ許可ヲ得タ上デナケレバ小哨ヲ離レテハナリマセヌ

三　上官ガ來ラレテモ敬禮センデヨクアリマス

九　銃前哨トハ如何

前哨中隊又ハ小哨ヲ警戒シ且ツ前方ノ部隊ト連絡スルモノデアリマス

十　歩哨一般ノ守則ハ如何

歩哨ハ絶ヘズ敵軍ノ方向ヲ監察シ凡テ疑ハシキ徵候ニ深ク注意シ若シ敵ニ關シテ發見セシコトアラバ速ニ其一人ハ小哨（時機ニ依リ中隊）ニ報告ス可シ若シ猶豫セバ危殆ニ陷ルト認メシトキ或ハ敵襲ト知リタルトキハ急劇ノ射擊ヲ爲シテ警報ス可

シ

晝間ハ我軍ノ將校斥候部隊斥候及ビ傳令使ニ歩哨線ノ出入ヲ許ス自餘ノ者ノ通過ニ關シテハ凡テ小哨長ノ指示ヲ受ク可シ而シテ歩哨ノ命スル所ニ從ハザル者アラバ之ヲ射擊ス可シ

夜間歩哨ニ近ヅク者アレバ銃ヲ構ヘ「誰カ」ト問フ若シ呼ブコト三次ニ至ルモ尙ホ答ヘザルトキハ射擊ス可シ凡テ其他ノ處置ハ晝間ノモノニ異ナルコトナシ

白旗ヲ飜ヘシ遠方ヨリ軍使タルコトヲ標シ來ル者アルトキハ之ヲ待遇スルニ敬ヲ以テセズ之ヲ歩哨線外ニ止メ小哨長ニ報告ス可シ此ノ規則ハ敵ノ單獨兵銃ヲ投棄シ或ハ遠方ヨリ降參人タルコトヲ標シ來ル時ニモ亦適用ス然レドモ武器ヲ携帶シアルモノハ先ヅ之ヲ放棄セシム可シ

歩哨ハ命令アルニ非ザレバ坐臥シ或ハ銃ヲ手ヨリ放スヲ許サズ而シテ晝間「立ヘ銃」ヲナスカ或ハ「提ヘ銃」ヲナスカ若クハ銃ヲ腕ニ（銃口ヲ前ニシ稍水平ニ腕ニ托ス）ス可キカハ其隨意トス然レドモ夜間ハ「擔ヘ銃」「提ヘ銃」又ハ腕ニ銃ヲナスモノトス

又上官ノ來ルアルモ之ニ敬禮スルヲ要セズ若シ上官ヨリ質問アレバ監視ヲ中止スル

コトナク唯姿勢ヲ正シウシテ答フベシ

十一　歩哨特別守則トハ如何ナルモノカ

一般守則ヲ補フ者デ其歩哨ノ番號、隣歩哨ノ位置及其番號、査哨、小哨中隊ノ位置此各位置ニ通ズル捷徑、前方ニ進メタル部隊ノ位置敵情、殊ニ監視スベキ地方及顧慮スベキ村落等ノ名稱隣歩哨トノ連絡ハ動哨ニ依テ保ツベキカ等須要ノ事ニ關スル守則デアリマス

十二　斥候ハ何ノタメニ出スヤ

行軍ト前哨ヲ問ハズ警戒ヲ嚴重ニスル爲メ敵情ヲ捜リニ行クモノデアリマス

十三　前哨ノ斥候歩哨線ヲ通過スル件ハ如何スルヤ

近傍ノ歩哨ニ其行ク方向ヲ告ゲ歩哨ノ見聞セシ樣子ヲ聞キ歸リニハ歩哨ノ監視區内ノ敵情ヲ單簡ニ云ヒマス

十四　凡テ斥候ノ報告ニハ如何ナル事ニ注意スベキヤ

自ラ見シ事ト他ノ兵卒ノ見聞セシ事ト人民等ニ問フテ得タル事ト推測ニ係ル事トヲ判然區別シ報告スル事ガ必要デアリマス而シテ推測ニハ理由ヲ陳ベネバナリマセン○報告ニハ員數時刻位置ヲ陳ベ時間ハ午前午後ヲ冠シ全夜ニ亘ル事ハ單ニ何日ノ夜ト云

ヒ右翼ヨリ初メマス

十五　巡察ハ如何ナルモノカ

歩哨線ヲマワリ歩哨ヲ監視シ歩哨ナキ土地ヲ捜リ隣ノ哨所ト連絡スルモノデ有マス

行軍

一　行軍力ヲ保持スルニハ如何ナル事ニ注意スルカ

軍紀ヲ守リ被服裝具ノ着裝ヲ正クシ衛生ニ注意シ殊ニ靴僂ヲ豫防シ休暇中及舍營ニ於テ自ラ適當ノ保護ヲ爲シ勉メテ徒勞ヲ避ケマス

二　行軍中如何ナルコトヲ守ラネバナラヌカ

1、列中ニアッテハ距離間隔ヲ正シクシ先頭ニ重リテ行進シ若シ右又ハ左ニ偏レノ號令カ喇叭ヲ聞イタルトキハ早ク其方ニ偏リマス

2、列ヲ離レルトキニハ小隊長ノ許可ヲ受ケ銃ヲ隣兵ニ托シマス

3、銃ハ右肩左肩ニ擔フコトハ隨意ナレド何時モ正シク擔ヒ隣兵ノ銃ト衝突サセヌ樣注意シマス

4、服裝ヲ勝手ニ案シテハナリマセン

三　道路ノ一側ヲ明ケテ行進スルハ何ノ爲メカ

他隊ノ通行又ハ傳騎ノ疾走ヲ妨ゲザル爲デアリマス

四　軍橋ヲ渡ル片ノ規則如何

通常四列側面ヲ以テ歩ヲ揃ユルヿナク橋ノ中央部ヲ行進シマス但其列ハナルベク整ヘヲバナリマセヌ假令前方ノ巨離ヲ失フヿアルモ決シテ軍橋上ニテ之ヲ回復シマセン

五　沍寒ニ際シ凍死凍傷ヲ豫防スルニハ如何スルヤ

休止ノ際冷水ヲ用ユルヿナク湯茶ヲ用イ又浸潤タル被服ハ成ルベク早ク之ヲ着換ヘマス但シ身体ノヌレタル片若クハ大ニ凍痛ヲ感ズル片ハ火熱ニ近ヨッテハナリマセン又屋外ニテ睡眠シ大酒及ビ熱物ヲ飲食シテハナリマセン且ツ常ニ手足耳鼻ハ取分ケ足尖モ凍傷ニカヽラヌ樣ニシマス

六　後方ヨリ右或ハ左ノ號音アル片ハ如何スルヤ

必ズ速ニ其一側ニ偏リマス

七　夜行軍ノ注意如何

殊ニ前ノ者ト離レザル樣ニナシ敵ノ近傍ニアリテハ靜肅ニ進行セヲバナリマセン

宿營

一　宿營トハ如何

軍隊ノ宿泊スルヿデアリマス

二　舍營トハ如何

家屋内ニ宿營スルヿデアリマス

三　露營トハ如何

露天ニ宿營スルヿデアリマス

四　村落露營トハ如何

一部ノ隊ハ舍營ヲシ一部ノ隊ハ露營ヲスルノデアリマス

五　警急舍營トハ如何

服裝ヲ整ヘ背嚢ヲ身邊ニ置キ眠臥シ總テ窓ヲ開キ家屋内ニ少クモ兵卒一名點燈シテ警戒ヲ爲ス舍營デアリマス

六　宿營ニ就キシ後如何ナルヿヲナスカ

武器被服ノ手入ヲナシ之ヲ整ヘヲキ假令暗黑ト雖モ速ニ武裝ヲナシ出發シ得ル樣ニ準備シ置キマス

七　舍營中警報アレバ如何スルヤ

速ニ武裝ヲ整ヘ小隊（分隊）毎ニ集合シ然ル後中隊ノ集合所ニ行キマス若シ敵兵急ニ舍營内ニ侵襲シ其所屬部隊ニ集合シ能ハサルモノハ其各所ニ於テ現在ノ人員協力シテ防禦シマス

八　露營ノ設備又ハ雜役ヲシテ居ル時上官ニ遭フトキハ如何ニスルヤ

上官ニ對シ敬禮ヲ行ヒマセン若シ上官ヨリ語ヲ接シ或ハ呼バルヽ片ハ只直立若クハ止マリテ答ヘマス休憩中モ同樣デアリマス

九　露營中警報ノアルトキ如何ニスルヤ

各自速カニ背嚢ヲ負ヒ又銃ノ側ラニ行キマス但シ命令ナケレバ銃ヲ解イテハナリマセン

十　露營中呼集ノ報アルトキハ如何

武器ヲ携フルヿナク集合所ニ行キマス

給養

一　戰時出征軍人ノ糧食ハ如何ナルモノナリヤ

精米副食物デアリマス時トシテ精米ノ内若干ヲ挽割麥ニ代フルコトモアリマス

二　携帶口糧トハ如何

各自背嚢ニ收容スル豫備ノ糧食ニテ始終必ズ携帶スベキ物デアリマス

三　携帶口糧ニハ如何ナル物ヲ用ユルカ

精米及ビ副食物若干若クハ乾麵麭及ビ副食物若干ヲ用ヒ各自二日分ヲ携行シマス此ノ糧食ハ隊長ノ命令ナケレバ喰フコトハ出來マセン

彈藥補充

一　彈藥補充ニ關シ兵卒ノ心得如何

彈藥ヲ射盡セバ步兵ハ其主要ノ戰鬪力ヲ失ヒマスカラ機會アレバ別ニ命令ナキモ彈藥ヲ補充シナルベク多クノ彈藥ヲ持ツヿニ注意セネバナリマセン之レガタメ傷者又ハ死者ノ彈藥ヲ收拾スルヿガ極メテ緊要デアリマス

射擊

い　射學理

一　彈道トハ如何

彈丸ノ空氣ヲ行ク道ヲ云ヒマス

二　射距離トハ如何

銃口ヨリ命中點ニ至ル距離ヲ云ヒマス

三　照準線トハ如何

照門ノ中央ヨリ照星頂ヲ見通ス直線ヲ云ヒマス

四　照準トハ如何

照準線ヲ一點ニ指シ向ケルヲ云ヒマス

五　照準點トハ如何

照準線ノ達スル點ヲ云ヒマス

六　側方ヨリ來ル風ハ彈丸ヲ如何ニスルカ

側方ニ偏移シマス○コレハ射距離ト風力ノ增加スルニ從ヒ甚ダシクナリマス

七　後方或ハ前方ヨリ來ル風ハ如何

前方ヨリ來ル風ハ射距離ヲ減ジ後方ヨリ來ル風ハ射距離ヲ增シマス

八　季節ニ依リ射距離ニ增減アリヤ

夏ニ於テ增シ冬ニ於テ縮リマス

九　光線ノ照ストキハ如何ナル關係アルヤ

光線上ヨリ照ストキハ照星大キク見ヘ自然照星ヲ低ク見出スカラ射擊距離ガ減ジマス○側方ヨリ著シク照ストキハ照星ノ光ル方ハ大ク見ヘ彈丸ハ日光ノ反對ノ方ニ

偏避シマセン

十　曇リタル日又ハ曉方暮方ハ射距離ニ關係アルヤ

照星ガ能ク見ヘマセンカラ自然高ク見出シ射距離ヲ增シマス

十一　三八式歩兵銃ノ最大射距離如何

約四千米突

十二　三八式歩兵銃ノ侵徹力ハ如何

四百米突ニアリテ尋常積土、一米突生木ノ松ハ八十珊知以下ナレバトーシマス

ろ　距離測量

一　距離測量熟否ハ如何ナル關係ヲ及ボスヤ

其良否ハ照尺ノ用法及照準點ノ撰ビ方ニ關係シ射擊ノ効力ニ影響ヲガ多イカラデアリマス

二　兵卒ハ幾許ノ距離測量ガ出來子バナラヌカ

六百米突以内ノ距離測量ニ熟シ尚ホ千米突ノ測量モ出來子バナリマセン

三　巨離測量ハ如何ナル方法ニヨルヤ

目測、歩測、音響測量デアリマス

四　目測ニ於テ一般ニ近ク見ヘル場合如何

天氣ノヨキ時太陽ヲ後ニスルトキ目標ノ後明瞭ナトキ平地水面明瞭ナル目標波狀地特ニ間ノ土地ヲ見通スヿノ出來ヌトキデアリマス

五　一般ニ遠ク見ヘル場合ハ如何

炎熱ノトキ、太陽ニ向フトキ、目標ノ後暗キ時、曇リタル日、霧ノアルトキ、曉方暮方、森ノ内及細長キ土地、其他一部ノミ見ユル敵兵等デアリマス

六　目測ハ戰鬪間如何ニ見過ルヲ常トスルカ概シテ近ク見過リマス

七　低キ姿勢ニ在テ目測スルトキハ如何

遠ク見過ルヲ常トシマス

射擊演習ノ區分

一　狹窄射擊目的ハ如何

狹窄射擊ハ射擊ノ動作殊ニ照準ノ方法、引金ノ引方ノ要領ヲ覺エ尙ホ射擊ノ熟練ヲ保續ルタメニ行フ射擊デアリマス

二　敎練射擊トハ如何

色々ノ姿勢ニ於ケル銃ノ使ヒ方及射擊ノ修正法ヲ知ラシメ射擊ニ熟達セシムル爲メノ演習デアリマス

三　戰鬪射擊トハ如何

實戰ニ似寄リタル有樣ニテ射擊スル演習デアリマス而シテ各個戰鬪射擊、部隊戰鬪射擊ノ二通リガアリマス

四　名譽射擊トハ如何

敎練射擊ニ於ケル熟達ノ度合ヲ見ル者デアリマシテ師團ト中隊ニハ名譽旗ヲ授ケラレマス

射手ノ等級

一　射手ノ等級ハ如何初年兵ハ何レノ等級ニ屬スルヤ

特別射手、一等射手、二等射手デアリマス而シテ初年兵ハ總テ二等射手デアリマス

射擊場ニ於ケル警戒法

一　射擊場ニ於テ兵卒ノ守ルベキ規則如何

射場ト監的壕トノ往來ハ射擊中止ノ時デナケレバナリマセン○總テ噪ガシキヿハ嚴禁デアリマス故ニ射場ヨリ監的手ニ聲デ交通ハナリマセン○裝塡セシ銃ハ手ヨリ

シテハナリマセン○裝塡シアル銃ヲ他人ニ托スルニハ其事ヲ云ヒマス射擊場デ勝手ニ照準ノ演習ヲシテハナリマセン

へ　射擊ノ効力

一　獨リニテ射擊スルトキ銃ノ使用可ケレバ約半數命中ヲ期シ得ル　標準如何

二百米突以内ニヨリテハ頭首ヲ顯シタル兵

三百米突以内ニアリテハ伏姿兵

四百米突以内ニアリテハ膝姿兵

五百米突以内ニアリテハ立姿兵及密接セル二人膝姿兵トス

六百米突以内ニアリテハ密接セル二人立姿兵及騎兵

と　射擊徽章

一　射擊ノ徽章トハ如何ナルモノカ初年兵ハ何人徽章ヲ受クルヿガ出來ルカ

良キ射手ナルコトヲ表スル名譽ノ賞標デアリマシテ二等射手ニハ各隊兵卒二十名ニ付一個デアリマス

第一種徽章特別射手、聯隊十五名ニ付一個第二種一等射手各大隊下士十六名ニ付一個各中隊兵卒十八名ニ付一個第三種二等射手各中隊兵卒二十名ニ付一個

二　如何ナルモノニ徽章ヲ賜ハルカ

教練射擊ノ各習會ニ合格シ尚ホ實習射擊ノ發射彈數尤モ少ナキモノニ賜ハリマス若シ同等ナレバ實習射擊ノ命中點ノ多キモノニ尚ホ同等ナレバ基本射擊ノ彈數少ナキモノニ授與セラレマス

第二章　衛兵勤務

一　衛兵勤務トハ如何

衛戍勤務及風紀衛兵ノ勤務デアリマス

二　衛戍勤務トハ如何

衛戍地ヲ靜肅ニシ且ツ非常ノ時ニ人民ヲ保護スル爲メデアリマシテ衛戍衛兵衛戍控兵、巡察、總代、斥候等デアリマス

三　衛戍衛兵ノ心得如何

服務中ハ武裝ノ用意ヲナシ何時ニテモ呼集ニ應ジ得ル樣ニシテオリマス

四　巡察トハ如何ナルモノカ

市中ノ樣子ヲ視察スルモノデアリマス

五　風紀衛兵トハ如何

營内ヲ靜謐ニシ定則ヲ守ラセ併セテ内外ノ警戒ヲナスモノデアリマス

六　營門出入ノ軍人ニハ如何ナル「ヲ注意スルカ

軍人ノ態度及服裝等其法ニ違フルモノアレバ之ヲ正マス

七　衛兵服務中ノ心得如何

司令ノ許可ナク安リニ衛舍ヲ離ル、「ハナリマセン又夜間三分一ハ假眠ヲナス「ヲ得ルモ何時デモ舍前ニ集合スル「ガ出來ヲバナリマセン總テ衛兵服務中ハ其任務重クシテ其過誤ハ陸軍刑法ニ據リテ處分セラル、「多ケレバ嚴重ニ服務セヲバナリマセン

八　歩哨一般ニ守ルベキ守則ハ如何

一　歩哨ハ擔銃立銃或ハ腕ニ銃ヲナシ其受持區域ヲ監視シ居リマス假令哨舍内デモ銃ヲ放ス「ハナリマセン又夜間ハ劍ヲツケマス

二　歩哨ハ哨舍ノ近傍三十歩以内ハ行動ク「ガ出來マス但シ交代或ハ敬禮ノ時ハ定位置ニ立タヲバナリマセン

三　歩哨ハ姿勢動作ヲ嚴正ニシ煙草ヲ吸ヒ無用ノ談話ヲナシ或ハ哨舍ヲ毀損シ或ハ其近傍ヲ汚穢クシ或ハ頭巾ヲ着テハナリマセン又雨雪天ノ外ハ哨舍ニ入ル「ハナリマセン

四　歩哨ノ歩哨係ノ引卒スル兵デナケレバ交代シテハナリマセン又聯隊長、週番中隊長、巡察諸官、風紀衛兵司令同上等兵ノ外他人ニ其守則ヲ語リ或ハ他人ヨリ更ニ其守則ヲ受ケテハナリマセン

五　屯營若クハ近傍ニ火災アレバ「火事」ト呼ビ又胡亂ノモノ近ヨレバ之ヲ止メ若シ止ラヌカ或ハ暴行者アレバ大聲デ「氣ヲ付ケ」ト呼ビ尙取押ヘル樣ニシマス

六　門ヲ開キタル間ハ準士官以上及之ニ從フモノハ通シマス其他ハ特別守則定メニヨリマス

七　品物ヲ持出サントスル者アレバ其持出證ヲ調ベ衛兵司令ノ印ガアレバ之ヲ許シ其持出證ハ交代ノ後衛兵司令官ニ出シマス

赤十字條約ノ大意

一　赤十字條約ノ趣旨如何

今日ノ戰爭ハ國ト國トノ戰デアッテ人ト人トノ爭デハアリマセン其レ故文明諸國ガ

市中ノ樣子ヲ視察スルモノデアリマス

五　風紀衛兵トハ如何

營内ヲ靜謐ニシ定則ヲ守ラセ併セテ内外ノ警戒ヲナスモノデアリマス

六　營門出入ノ軍人ニハ如何ナル〻ヲ注意スルカ

軍人ノ態度及服裝等其法ニ違フルモノアレバ之ヲ正マス

七　衛兵服務中ノ心得如何

司令ノ許可ナク妄リニ衛舍ヲ離ル、〻ハナリマセン又夜間三分一ハ假眠ヲナス〻ヲ得ルモ何時デモ舍前ニ集合スル〻ガ出來ヲバナリマセン總テ衛兵服務中ハ其任務重クシテ其過誤ハ陸軍刑法ニ據リテ處分セラル、〻多ケレバ嚴重ニ服務セヲバナリマセン

八　歩哨一般ニ守ルベキ守則ハ如何

一　歩哨ハ擔銃立銃或ハ腕ニ銃ヲナシ其受持區域ヲ監視シ居リマス假令哨舍内デモ銃ヲ放ス〻ハナリマセン又夜間ハ劍ヲツケマス

二　歩哨ハ哨舍ノ近傍三十歩以内ハ行動ク〻ガ出來マス但シ交代或ハ敬禮ノ時ハ定位置ニ立タヲバナリマセン

三　歩哨ハ姿勢動作ヲ嚴正ニシ煙草ヲ吸ヒ無用ノ談話ヲナシ或ハ哨舍ヲ毀損シ或ハ其近傍ヲ汚穢クシ或ハ頭巾ヲ着テハナリマセン又雨雪天ノ外ハ哨舍ニ入ル〻ハナリマセン

四　歩哨ノ歩哨係ノ引卒スル兵デナケレバ交代シテハナリマセン又聯隊長、週番中隊長、巡察諸官、風紀衛兵司令同上等兵ノ外他人ニ其守則ヲ語リ或ハ他人ヨリ更ニ其守則ヲ受ケテハナリマセン

五　屯營若クハ近傍ニ火災アレバ「火事」ト呼ビ又胡亂ノモノ近ヨレバ之ヲ止メ若シ止ラヌカ或ハ暴行者アレバ大聲デ「氣ヲ付ケ」ト呼ビ尙取押ヘル樣ニシマス

六　門ヲ開キタル間ハ準士官以上及之ニ從フモノハ通シマス其他ハ特別守則定メニヨリマス

七　品物ヲ持出サントスル者アレバ其持出證ヲ調ベ衛兵司令ノ印ガアレバ之ヲ許シ其持出證ハ交代ノ後衛兵司令官ニ出シマス

赤十字條約ノ大意

一　赤十字條約ノ趣旨如何

今日ノ戰爭ハ國ト國トノ戰デアッテ人ト人トノ爭デハアリマセン其レ故文明諸國ガ

盟約シテ戰地ニ於テ已ニ戰鬪力ナキ傷者病者ヲ互ニ救ヒ助クルノデアリマス

二　赤十字ノ標章如何

白地ニ赤ノ十字ヲ畫キタルモノデアリマス

三　此標章アルモノハ如何ナル取扱ヲ受クルカ

コノ標章ヲ着ケタルモノ並ニ家屋ハ敵ニモアラズ味方ニモナキモノトシテ取扱ハレマスソレ故此標章アルモノニ對シテハ一發モ射擊スルヿハナリマセン

四　此標章ヲ着ケタル傷者敵手ニ陷ル場合ハ如何ナル取扱ヲ受クルカ

決シテ殘酷ナル取扱ヲ受クルヿナキノミナラズ却テ尊敬救護ヲ受クル者デアリマス

五　敵ノ殘シタル傷病者ニ對シテノ心得如何

軍人タルノ禮儀ヲ盡シ決シテ侮辱ヲ加ヘテハナリマセン

六　捕虜ニ對シテノ心得如何

病傷者同樣ニ取扱ヒマス

救急法ノ概要

一　救急法トハ如何

戰鬪中負傷シタルトキ又ハ急ノ病氣ニ罹ツタトキデ醫官ノ診斷ヲ受ケル暇ノナイトキ其ノ傷ヤ病ヲ重クナラヌ樣一時手當ヲスル方法デアリマス

二　救急法ハ如何ナル必要アルカ

衛生部員ノ來ラザル前其手當ヲ怠ルトキハ輕キモノモ重クナルカラデアリマス

三　創傷ハ何ヲ以テ手當スルカ

上衣ノ左裾裏ニ納メアル繃帶包ニテ手當ヲナシマス又三角巾ノ代リニ襟布ヲ用ユルヿモアリマス

四　止血法トハ如何

創口ヨリ徐カニ出血シ其量少ナキカ或ハ暗紅色ナレバ消毒綿紗一枚ニテ創口ヲ覆ヒ指ニテ強ク壓シ血ノ止ムヲ見バ又他ノ消毒綿紗一枚ニテ創口ヲ覆ヒ後繃帶シマス○又鮮紅色ノ血飛ビ出ヅレバ赤布一二枚ヲ丸メテ出血スル所ニ當テ指ニテ強ク壓シマス若シ此法ニテ止マラヌバ創ノ上部ニアル動脈ヲ骨ニ向テ壓シマス

一　靜脈出血ト動脈出血ノ區別如何スルカ

靜脈出血ハ暗紅色ノ血液創口ヨリ徐カニ流レ出ルモノニテ危險少ナシ動脈出血ハ鮮紅色ノ血液飛ビ出デルモノニシテ最モ恐ルベキモノデアリマス

五　指ノ止血法ハ如何スルカ

指ノ出血ハ其指根ノ兩側ニ拇指ト示指トヲ當テ強ク撮ミマス手臂ノ出血ニハ上膊ノ力瘤ガ出ル處ハ内側ニアル淺キ溝ニ示指中指環指ノ三本ヲ當テ掌ヲ前或ハ後ニ廻ハシ固ク握リ指頭ニテ溝ノ處ヲ強ク骨ニ向テ壓シマス又傷者自ラ此ノ法ヲ行フニハ拇指頭ヲ力瘤ノ内側ノ淺キ溝ニ當テ掌ヲ前ニ廻ハシ固ク握リマス

六　上膊ノ上部或ハ腋窩ノ止血法如何

頭ノ下鎖骨ノ上ニアル窩ニ拇指頭ヲ當テ深ク内下ノ方ニ向ケテ壓シマス

七　口ノ傍ノ出血ニハ如何スルカ

顎尖ト下顎隅角ノ間ニシテ後ヨリ凡ソ三分ノ一ノ處デ骨ニ向ケ強ク壓シマス

八　脚ノ出血ニハ如何スルカ

一般ニ鼠蹊ノ少シ下ニ内側ノ中央ニテ脉ノ有ル所ニ左右ノ拇指ヲ當テ、強ク壓シマス

九　長キ間指ニテ壓セバ疲レ又指ニテ壓シタル儘傷者ヲ他ニ運ブヿハ頗ル困難ナリ是ヲ避クルニハ如何スルカ

栗太ノ小石或ハ之ニ似タル者ヲ赤布ニ包ミ指ニ代ヘ其上ヲ半巾等ニテ緩ク卷キ其間

ニ劍鞘竹木懷中小刀等手近ニアルモノヲ挾ミマワシテ血ノ止ル迄シメマス

十　出血ニ就テノ注意如何

成ル可ク創部ヲ高クナシマス

十一　防水布ハ何ノ用ヲナスカ

消毒綿紗ノ濕ルヲ防グタメデアリマス

十二　繃帶包ノ使用法如何

先ヅ之ヲ開キ赤布ヲ出シ其疊ミ込ミタル面ニハ手及其他ノ物ノ觸レザル樣ニ注意シ創口ニ當テ三角巾ニテ其端ヲ結ビ合セ置キマス

一　繃帶包トハ如何ナルモノナルヤ

消毒綿紗二枚ヅヽ蠟引紙ニテ包ミ二包トシソレヲ三角巾ニテ包ミタルモノヲ更ニ被包布ニテ包ミタルモノデアリマス

十三　消毒綿紗（綿花）トハ如何

紅色ニ染メタル木綿ノ消毒シタルモノデアリマス

十四　消毒綿紗ノ使用法如何

外面ヲ指ニテ撮ミ内面ヲ創ニ當テ其創ニ當ル所ニハ少シモ指テ當ツルヿハナリマセ

十五　消毒綿紗ハ如何ナル効用アルカ

何創ヲ問ハズ消毒綿紗ヲ用ヒテ丁寧ニナシオケバ治癒スルモノデアリマス○刺傷ニ手ヲ觸レタ後如何ニ療法ヲ施コスモ好結果ハアリマセン

十六　三角巾使用法如何

開キ又ハ三角形ナリニ疊ミ用ユル場合ト目耳額頸顋手足ノ小サイ創ニ卷クニハ二寸許リノ長方形トナシ用ヒマス

一　三角巾ノ名稱如何

三角ノ尖ヲ尖頂下ノ廣キ處デ下緣兩端ノ尖トスル處ヲ尖尾尖頂ト尖尾ノ間ニ側緣ト言ヒマス

十七　頭ノ創ヲ卷クニハ如何スルカ

三角巾ヲ開キタル儘其中央ヲ頭頂ニ當テ置キ下緣ヲ額ニ當テ兩端ヲ頭ノ後ロニ廻ハシ組ミ違ヘ再ビ額ニ戻シテ結ビ合セマス○後ニ垂レタル三角部ハ反折シテ額ニテ結ビタル一端ト結ビ合セマス

十八　胸ノ傷ヲ繃帶スルニハ如何スルカ

三角巾ノ中央ヲ胸ニ當テ尖ハ創ノアル方ノ肩ヲ越ヘテ後方ニ置キ下緣ニテ胸ヲ纏ヒ兩尖ヲ左右ノ腋下ヨリ背ニ廻シテ結ビマス

十九　背ノ創ノ卷キ方如何

胸ノ創ト同ジヿデアリマス○唯後ヨリ掩フテ前ニ結ブノガ異ヒマス

二十　臀部ノ創ヲ卷クニハ如何スルカ

尖端ヲ上方ニ向ケ下緣ニテ太腿ヲ纏ヒマス○後上ニ向ケタル尖ヲ褌紐（帶革）ノ下ニ通シ折リ反シテ他ノ端ト結ビマス

一　副木トハ如何

骨ノ折レタルトキニ兩側ニ當テ其部ヲ動カス樣ニスル副ヘ木デアリマス

二　副木ナキトキハ如何ニスルヤ

劍鞘木竹薄板藁束等手近ニアルモノヲ用ヒマス

三　副木ハ內側ニ當テルモノモ外側ニ當モノモ同ジ長サニテヨキヤ

內側ニ當テルモノハ短ク外側ハ長クシマス

廿一　臂若クハ脚ノ骨傷ニハ如何スルカ

副木ヲ當テ少クモ二ケ所ニ結ビ安ラカニオキマス

廿二　手若クハ脚ノ傷ヲ卷ク法如何

三角巾ヲ二ツニ疊ミ或ハ切リテ小サキ三角形トナシ其緣ヲ手頸ノ方ニ向ケテ手ノ下ニ敷キ尖ヲ折リテ手ヲ被ヒマス○次ニ両端ヲ交叉シテ手頸ヲ纏ヒ結ビマス

一　銃創ニテ創口ニ銃丸又ハ衣服ノ切片等ガ見ヘテ居ル片ハ如何ニスルヤ

創口ニ汚レタル指ヲ觸レルト却テ創ガ惡クナリマスカラ取ラズニ繃帶シマス

廿三　創口ヲ繃帶スルノ注意如何

勉メテ外氣及ビ塵埃等總テ不潔物ノ創口ニ入ラザル樣ニシマス

廿四　挫傷セバ如何スルカ

靜ニ保チ水ヲ浸シタ手拭又ハ他ノ布片ニテ冷サヲバナリマセン○表皮ヲ破リシ創ナラバ繃帶包ノ消毒綿紗ヲ創ニ當テ其上ニ殘リノ綿紗ヲ重ネ三角巾ニテ固ク卷キ其末ヲ結ビマス

廿五　砲創、銃創及ビ刺創ノ處置ハ如何スルカ

先ヅ衣ヲ脫ガセマス○場合ニ依リテハ剪刀銃劍ヲ用ヒ縫目ニ沿ヘテ創所ニ當テ衣ヲ切リ開キ創ノ大小ニ應ジテ消毒綿紗一枚又ハ二三枚ヲ其創口ニ當テ三角巾ニテ卷キマス

廿六　挫創、銃創等ノ骨折ヲ兼ヌルモノ如何スルカ

創ノナキ方ニ木ノ皮藁薄板劍鞘等ヲ副ヘテ固ク繃帶シ又ハ脫舊セバ成ルベク靜ニオキマス

廿七　咬創ハ如何スルカ（毒蛇或ハ狂犬ニ咬マル、類）

直チニ創口ニ口ヲ接ケテ毒氣ヲ吸ヒ取リ清水ニテ洗ヒ赤布ヲ貼ケ三角巾ニテ卷キ更ニ創口ノ上部ヲ半巾等ニテ固ク縛リ毒氣ノ全身ニ行キ渡ラヌ樣ニシマス

廿八　火傷ハ如何スルカ

皮膚唯赤色トナリテ灼痛ヲ覺ユルモノハ水ヲ注ギテ輕ク冷ヤシ又水泡ヲ生ゼシ者ハ其側緣ヲ針ニテ刺シ水ヲ漏ラシ又皮膚焦爛タル者ハ直チニ赤布ヲ貼ケ三角巾ニテ卷キ總ベテ空氣ニ觸レヌ樣ニシマス

廿九　火ニ遭ヒ衣服燃ル片ハ如何スルカ

地上ニ伏シ轉輾テ之ヲ熄シ然ル後衣服ヲ脫ギマス若シ衣服ガ皮ノ上ニ附着セバ强イテ之ヲ剝ギ取ラズ剪刀ヲ以テ其緣ヲ切リ後チ繃帶シマス

三十　總ベテ手臂ニ傷ヲ受ク如何スルカ

止血法ヲ施シ更ニ胸ノ釦ヲ外ヅシテ手先キヲ懷ニ入レ又ハ帶革半巾ノ如キモノヲ用

ヒテ臂ヲ胸前ニ吊リ創ノ動搖ヲ防ギマス

卅一　卒倒セバ如何スルカ

衣袴ノ釦ヲ開キ胸部ヲ緩メ頭及ビ上半身ヲ稍高クシテ安臥サセ冷水ヲ半巾ニ浸シ輕ク心臟部ヲ叩キ冷水ヲ面ニ灌ギマス醒覺スレバ水ヲ飲マシメマス醒覺ヲバ人工呼吸法ヲ行ヒマス

卅二　日射病ノ處置ハ如何スルカ

涼シキ木蔭又ハ家ノ内ニ入レ衣服ヲ解キ上半身ヲ高クシテ安臥セシメ水ヲ半巾ニ浸シ頭ト胸トヲ被ヒマス醒覺ヲバ水ヲ全身ニ灌ギ或ハ水ニ浴セシメ又ハ呼吸止ミタル者ハ人工呼吸法ヲ行ヒマス

卅三　凍傷ノ處置如何

冷室若クハ風ナキ木蔭ニ移シテ衣服ヲ脱ギ雪又ハ水ヲ用ヒテ注意シテ全身ヲ輕ク摩擦マス決シテ急ニ暖メテハナリマセン

卅四　中毒ノ處置如何

毒物ヲ飲食シテ久シカラザルモノハ吐カシムルノガ宜シクアリマス吐ヲ催スモノハ指頭ヲ咽ニ入レ吐カザルモノハ湯茶若クハ微温湯ヲ多ク飲マシメ毒ヲ稀クセヲバナリマセン

卅五　人工呼吸法トハ如何

患者ヲ平臥セシメ口ヲ開キ舌ヲ引出シ呼吸ヲ行フモノハ頭ノ邊ニ跪キ兩手ニテ患者ノ臂ヲ促ヘ擧ゲテ頭ノ上ニ至ラシメ空氣ヲ肺中ニ吸入セシメマス○次デ急ニ患者ノ臂ヲ下ゲ胸則ニ壓シ付ケ肺中ノ空氣ヲ呼出セシメマス此際助手ハ胸前及心窩ヲ壓シマス○數百回續ケテ患者自ラ呼吸スルニ至リテ止メマス

軍隊内務書ノ摘要

休暇

一　慰勞休暇トハ如何

特別ノ任務ニ服シ其勞多キモノニ賜ハルモノデアリマス

二　褒賞休暇トハ如何

行狀方正勤務勉勵ニシテ學術技藝ニ熟達シ他人ノ摸範トナルモノニ賜ハルモノデアリマス

三　請願休暇トハ如何

父母ノ重病又ハ死亡ノタメ歸宅ヲ要スル件願ニ依リ許可セラルヽモノニシテ其日

數ハ往復ヲ除キ十四日以内デアリマス若シ止ムヲ得ザレバ事故ノ連續スル間數回願フコガ出來マス但シ勤務繁劇ナル時ハ許サレヌコモアリマス

四　休暇中動員ノ令下リシコヲ知リタル時ハ如何スルヤ

直チニ隊ニ歸リマス

五　休暇日數二日以上ニ亘ルトキハ旅行又ハ外泊ヲ許可セラルヽコアリヤ

行狀方正勤務上ノ結果優秀ナルモノニ限リ許サレマス

六　請願休暇ヲ願出ヅル手續ハ如何

父母親戚等ノ願書ニ市町村長ノ證明書及醫師診斷書ヲ添ヘ所屬隊ニ願出デマス若シ急ヲ要スルトキハ電報ヲ以テ願ヒ出デ後本文ノ手續ヲナスモノデアリマス

ろ　使役ノ定則

一　當番卒トハ如何ナルモノカ

命令使書翰使其他ノ雜役ニ服スルモノデアリマス

二　當番卒營外ニ出ヅル場合ニハ如何ナル服裝ヲナスカ

第二種帽ヲ冠シ絨衣袴ヲ着シ銃劍ヲ帶ビ脚胖ヲ着ケマス○外套ヲ持ツ場合ニハ卷イテ左肩ヨリ右脇ニカケマス

三　當番卒ハ營外ニ出ヅル場合ニハ如何ナル證ヲ持チ行クカ

公用木札ヲ持チ行キマス

陸軍禮式摘要

い　歩哨ノ敬禮

一　歩哨ハ如何ナルモノニ對シ敬禮ヲ行フヤ

天皇、皇族、軍旗、將校、準士官（見習士官）下士上等兵各種勳章佩用者（寶冠章ヲ除ク）

二　歩哨ノ敬禮法ハ如何

其定位置ニ立チ受禮者約子六歩前ニ來ルトキ敬禮ノ姿勢ヲ取リ頭ヲ其方ニ向ケ之ニ注目シツヽ六歩過ギ去ル迄其姿勢ヲ保チマス復哨ニアリテハ互ニ見合シ同時ニ敬禮ヲ行ヒマス若シ哨舍内ニアルトキハ必ズ出テバナリマセン

三　歩哨ハ夜間敬禮ヲ行フヤ

夜間ニアリテモ受禮者タルヲ見分レバ敬禮ヲ行ヒマス何人ニ對シテモ夜間「執レ銃」ハ呼ビマセン

四　歩哨ノ敬禮ハ差異アリヤ

天皇、皇族、軍旗、將校、準士官、見習士官、大勳位及勳一等功一級ヨリ勳六等功五級ニ至ル勳章佩用者ニ對シテハ「捧ゲ銃」下士、上等兵勳七等功六級以下ノ勳章佩用者ニハ執銃ノ儘姿勢ヲ正シマス

五　歩哨ノ部隊ニ對スル敬禮ハ如何

姿勢ヲ正シ其隊長ニ對シ隊長ノ階級ニ從ヒ相當ノ敬禮ヲナシマス

六　歩哨儀仗隊ヲ附シタル軍人ノ柩ニ對シテ如何ナル敬禮ヲナスカ

死者階級相當ノ敬禮ヲ行ヒマス

七　帶勳者ニシテ其勳章ニ對スル敬禮ト官職ニ對スル敬禮ト同ジカラザルモノニハ歩哨ハ如何ナル敬禮ヲナスヤ

其重キニ從フテ敬禮ヲシマス

八　帶勳者ノ畧綬ヲ佩用スルモノニ對シテハ歩哨ハ如何ナル敬禮ヲナスカ

執銃ノ儘姿勢ヲ正シマス

九　兵卒ヨリ敬禮ヲ受クルトキハ歩哨ハ如何ニスルヤ

執銃ノ儘姿勢ヲ正シマス

ろ　儀式

一　儀仗兵トハ如何ナルモノカ

儀仗ノタメ天皇及ビ高貴ノ人ニ供スル部隊ヲ云ヒマス

二　送迎式トハ如何

天皇及高貴ノ人軍隊屯在地着發ノトキ迎送ノタメ軍隊ノ整列スルヿヲ云ヒマス

三　觀兵式トハ如何ナルモノカ

天長節　陸軍始其他臨時ノ儀式等ニ依リ團隊ヲ集合シ整飾シテ觀閲ニ供スルモノデ閲兵式ト分列式トアリマス

器具ノ名稱使用法及尺度

一　器具ハ何ノ用ヲナスモノナルヤ

歩兵ガ工作（散兵壕鹿砦等）ヲナスモノデアリマス

二　携帶器具ハ如何ナルモノカ

各人ガ携ヘテ持ツモノデ方匙、小斧、小十字鍬、疊鋸ノ四種デアリマス

三　コノ四種ノ器具ノ長及使用法如何

方匙　土ヲ堀リ又ハ之レヲ運ブモノデ長サ五十糎

小斧　木竹ヲ伐リ物ヲ壊スモノ

小十字鍬　硬キ土ヲ堀リ木ノ根等ヲ伐リ取ルモノ

四　駄載器具トハ如何ナルモノカ

大隊毎ニ馬ニ載セテ行クモノデ凹匙、十字鍬、斧ノ三種アリマス

五　コノ三種ノ器具ハ長サ及ビ使用法如何

凹匙　使用法ハ方匙ト同樣長サ一米二〇

十字鍬　使用法ハ小十字鍬ニ同樣

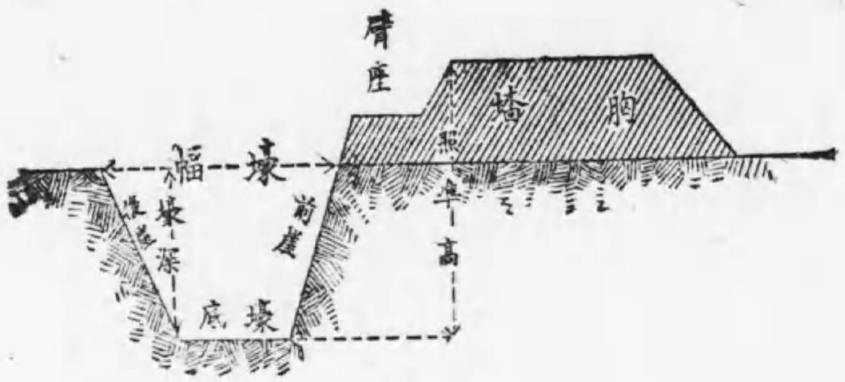
斧　使用法ハ小斧ニ同樣

工作

一　散兵壕ノ種類如何

膝射散兵壕、立射散兵壕、掘擴散兵壕等ガ重ナルモノデアリマス

二　普通ノ立、膝散兵壕ノ尺度如何



散兵壕尺度

	膝射	立射
胸墻厚サ	尋常土 一米二〇	同上
照準高	八〇珊 一米三〇	一米三〇珊
壕幅	一米五〇珊	同上
壕深	五〇珊	八〇珊
臂座ノ幅	三〇珊	同上
同高	二〇珊	同上

（上圖參照）

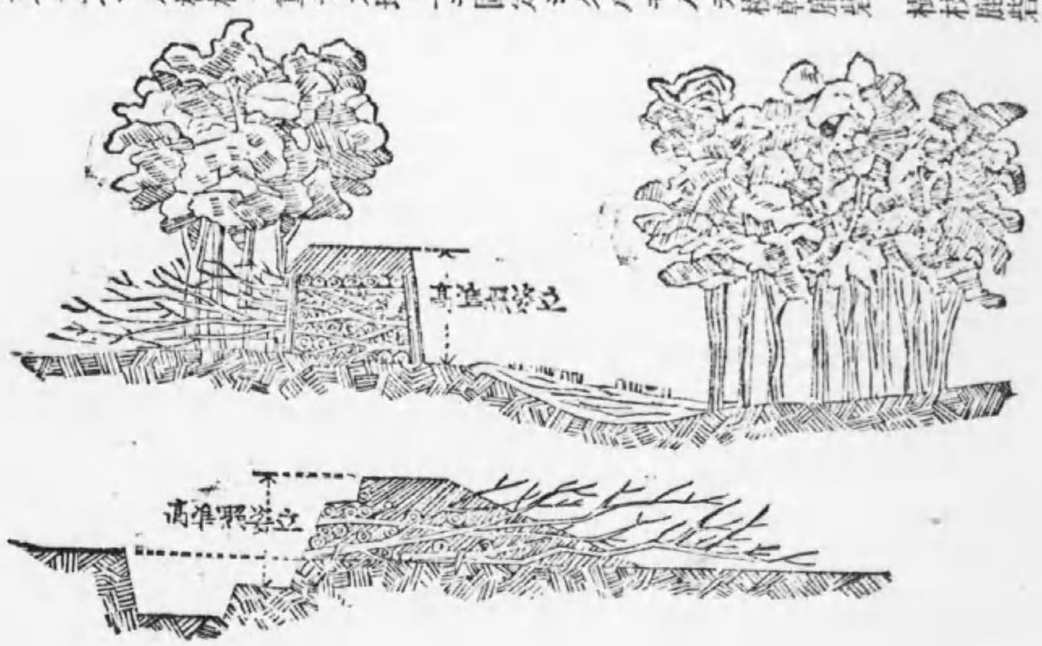
三　散兵壕ハ何ノ爲メニ作ルカ

味方ノ射擊ヲ便利ニシ敵ノ彈ヲ妨グルタメデアリマス

四　障害物ノ種類如何

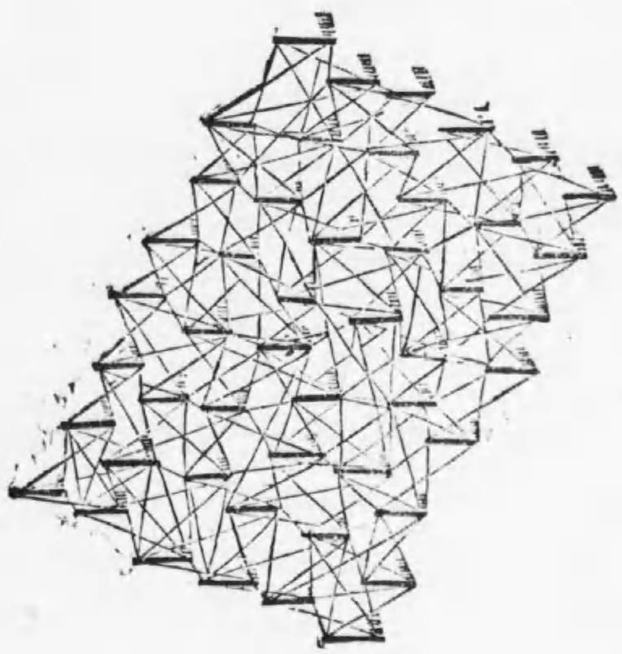
五　鹿砦、岩、鐵條網等デアリマス

樹幹ヲ枝ヲ又ハ大ナル樹枝ヲ重チテ地上ニ固定シタルモノデ樹幹鹿砦、樹枝鹿砦ト在リマス



六　鐵條網ト云ハ何ナルモノカ

杭ヲ鱗形ニ打込ミ之ニ針金ヲ縱横ニ引張ツテ作ツタモノデアリマス



七　鹿柴鐵條網ハ何ノ爲ニ設ケタルヤ

我ガ効力アル射撃ノ達スル所デ敵ノ前進ヲ妨グル爲メ設ケタルモノデアリマス

第三章

野外要務令摘要

一　動員トハ如何

軍隊平時ノ姿勢ヨリ戰時ノ姿勢ニ移ルヲ云ヒマス

二　師團ハ戰時如何ナル諸部隊ヨリ編成セラルヽヤ

通常歩兵二旅團騎兵一聯隊野砲兵一聯隊工兵一大隊架橋縱列一個彈藥一大隊輜重兵一大隊（糧食縱列及馬廠）及野戰衛生部（衛生隊及野戰病院）デアリマス

第四章

野外要務令摘要

一　舍營司令官及高等司令部ノ宿所ハ如何ナル標識アルヤ

旗デ標シテアリマス夜ハ燈點ヲ附ケテアリマス

二　宿營間ノ風紀衛兵ハ何ノ爲ニ設ケアルヤ

宿營地ノ靜肅及ビ軍紀ヲ維持スル爲デアリマス

三　外衛兵トハ如何ナルコトヲナスモノカ

宿營地直接ノ警戒ヲナスモノデアリマス

四　行李トハ如何ナルモノカ

戰鬪ニ必要ナルモノ即チ衛生材料、彈藥器具等（小行李）宿營ニ必要ナル物即チ荷物、炊具糧秣等（大行李）デ馬ニ駄ケテアリマス

五　輜重トハ如何

彈藥糧食架橋材料等ヲ載セタル車輛デアリマス

六　補助擔架卒トハ如何ナルモノカ

假繃帶所ヲ開キタル片擔架術ノ修業ヲ受ケタルモノガ命ニ依リ傷者ノ救急及運搬ニ從事スルモノデアリマス

七　繃帶所トハ如何ナルモノカ

衛生隊ガ開設スル傷者ノ治療所デアリマス赤十字ノ標旗ト國旗ヲ掲ゲ夜間ハ赤色ノ燈リガアリマス

八　假繃帶所トハ如何ナルモノカ

歩兵隊ノ設クル假ノ繃帶所デアリマシテ繃帶所ト同樣ノ標シガアリマス

九　演習中ノ心得

「氣ヲ付ケ」「止レ」ノ號音アレバ如何ニスルヤ

單獨ノ散兵斥候等ニ至ル迄現在ノ儘其地ニ止マリマス

其後休メノ號音アレバ如何スルカ

銃ヲ交叉シ休憩シマス

「氣ヲ付」「進メ」ノ號音アレバ如何スルヤ

再ビ演習ヲ初メマス

「分レ」ノ號音アレバ如何ニスルヤ

所屬隊ニ歸リマス

射擊ハ敵ヲ距ル何米突マデ行ヒ得ルヤ

百米突以内デハ發火セズ只射擊ノ擬ヲシマス

突擊ハ何米突迄行フテヨキヤ

三十米突ヨリ近寄スルヿナク「立銃」ヲナシマス

危險ノタメ發火シテハナラヌ場合ハ如何

家屋、秣、藁等ノ如キ火災ノ慮アル所デアリマス

庭園耕作地等ニ進入シテモヨキヤ

自分ノ任務ヲ盡ス爲メ止ムヲ得ザル時ノ外ハナリマセン

鐵道ハ通過スルモ妨ナキヤ

通路點ノ外之ヲ越ルヿハ嚴禁デアリマス

假設敵タル時兵卒ノ心得如何

標旗ハ常ニ之ヲ高ク上ゲ土地ノ起伏部ニ於テハ其ノ上方、林緣、垣、生籠塀墻ニ於テハ其前方ニ位置シマス

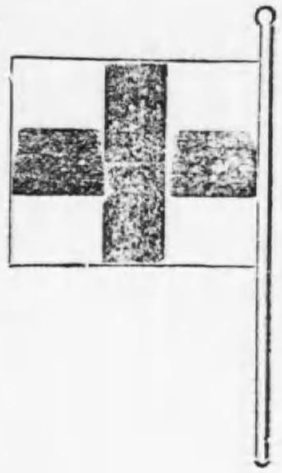
假設旗ハ兵種ヲアラワスニハ如何ナル色ヲ用ユルカ

歩兵ハ赤、騎兵ハ白、砲兵ハ黄色デアリマス

損傷旗トハ如何ナルモノカ

敵火ノ効力ニヨリ戰鬪力ノ減衰タルヿヲ表ハス者デ白色ニシテ中央ニ黑色ノ十字ヲ書イテアリマス

つぎにづがあります



損傷旗ノ立方如何

伏姿或ハ膝姿デハ旗竿ノ下端ヲ地上ニ附ケ運動中若クハ停止中ハ旗テ人頭ノ上方ニ超出セシメ植テマス

統監旗トハ如何

統監ノ所在ヲ表ハス者デ左圖ノ通リデアリマス　（つぎをみよ）

射撃教範摘要

一　檢閲射撃トハ如何

實戰ニ近キ方法ニテ部隊長ノ射撃指揮ニ關スル注意ノ良否兵卒ノ戰鬪間射撃動作ニ於ケル熟達ノ度合ヲ檢閲スルモノデアリマス

二　名譽射撃トハ如何

教練射撃ニ於ケル熟達ノ度合ヲ見ルモノデアリマシテ師團内ノ成績尤モ優等ナル中隊ニハ特別ノ證表ヲ交附セラレ尚ホ三日間ノ休暇ヲ賜ハリマス此證表ハ翌年ノ名譽射撃ノ日迄オクモノデアリマス

統監旗

第二篇

勅諭

我國の軍隊は世々天皇の統率し給ふ所にぞある昔神武天皇躬づから大伴物部の兵どもを率ひ中國のまつろはぬものどもを討ち平げ給ひ高御座に即かせられて天下しろしめし給ひしより二千五百有餘年を經る此間世の樣の移り換るに隨ひて兵制の沿革も亦屢なりき古は天皇躬から軍隊を率ひ給ふ御制にて時ありては皇后皇太子の代らせ給ふこともありつれど大凡兵權を臣下に委ね給ふことはなかりき中世に至りて文武の制度皆唐國風に倣はせ給ひ六衛府を置き左右馬寮を建て防人など設けられしかば兵制は整ひたれども打續ける昇平に狃れて朝廷の政務も漸く文弱に流れければ兵農おのずから二に分れ古の徵兵はいつとなく壯兵の姿に變り遂に武士となり兵馬の權は一向に其武士どもの棟梁たる者に歸し世の亂と共に政治の大權も亦其手に落ち凡そ七百年の間武家の政治とはなりぬ世の樣の移り換りて斯なれるは人力もて挽回すべきにあらずとはいひながら且つは我國體に戻り且は我祖宗の御制に背き奉り淺間しき次第なりき降りて弘化嘉永の頃より德川の幕府其政衰へ剩へ外國の事とも起

りて其侮を受けぬべき勢に迫りければ朕が皇祖仁孝天皇皇考孝明天皇いたく辰襟を惱まし給ひしこゝろ忝くも又惶けれ然るに朕幼くして天津日嗣を受けし初め征夷大將軍其政權を返上し大名小名其封籍を奉還し年を經ずして海内一統の世となり古の制度に復しぬ是文武の忠臣良弼ありて朕を補翼せる功績なり歴世祖宗の專ら蒼生を憐み給ひし御遺澤なりといへども併我臣民の其心に順逆の理りを辨へ大義の重きを知れるが故にこうあれされば此時に於て兵制を改め我國の光を輝さんと思ひ此十五年が程に陸海軍の制をば今の樣に建定めぬ夫兵馬の大權は朕が統ぶる所なれば其司々をこそ臣下には任すなれ其大綱は朕親ら之を攬り肯て臣下に委ぬ可きものにあらず子々孫々に至るまで篤く斯旨を傳へ天子は文武の大權を掌握するの義を存じ再び中世以降の如き失體なからん事を望むなり朕は汝等軍人の大元帥なるぞされば朕は汝等を股肱と頼み汝等は朕を頭首と仰ぎてゞ其親は特に深かるべき朕が國家を保護して上天の惠みに應じ祖宗の恩に報ひまいらする事を得るも得ざるも汝等軍人が其職を盡すと盡さざるとに由るぞかし我國の稜威振はざるとあらば汝等能く朕と其憂を共にせよ我武維れ揚りて其榮を輝かさば朕汝等と其譽を偕にすべし汝等皆其職を守り朕と一心になりて力を國家の保護に盡さば我國の蒼生は永く太平の福を受け

我國の威烈は大に世界の光華ともなりぬべし朕斯も深く汝等軍人に望むなれば猶訓諭す可き事こゝろあれいでや之を左に述べん

一　軍人は忠節を盡すを本分とすべし　凡そ生を我國に稟るもの誰かは國に報ゆるの心なかる可き況して軍人たらんものは此心の固からでは物の用に立ち得べしとも思はれず軍人にして報國の心堅固ならざるは如何程技藝に熟し學術に長ずるも猶偶人にひとしかる可し其隊伍も整ひ節制も正しくとも忠節を存せざる軍隊は事に臨みて烏合の衆に同じかるべし抑々國家を保護し國權を維持するは兵力にあれば兵力の消長は是國運の盛衰なることを辨へ世論に惑はず政治に拘らず只々一途に己が本分の忠節を守り義は山嶽よりも重く死は鴻毛よりも輕しと覺悟せよ其操を破りて不覺を取り汚名を受くるなかれ

一　軍人は禮儀を正しくすべし　凡そ軍人には上元帥より下一卒に至るまで其間に官職の階級ありて統屬するのみならず同列同級とても停年に新舊あれば新任のものは舊任のものに服從すべきものゞ下級のものは上官の命を承ること實は直に朕が命を承る義なりと心得よ己が隷屬する所にあらずとも上級のものは勿論停年の己より舊きものに對しては總て敬禮を盡す可し又上級のものは下級のものに向ひ聊も輕侮驕傲の振舞ある可からず公務の爲めに威嚴を主とする時は格別なれども其外は務めて懇に取扱ひ慈愛を專一と心懸け上下一致して王事に勤勞せよ若し軍人たるものにして禮儀を紊り上を敬まはず下を惠まずして一致の和諧を失ひたらんには啻に軍隊の蠹毒たるのみかは國家の爲めにも許しがたき罪人なるべし

一　軍人は武勇を尚ぶべし　夫れ武勇は我が國にては古よりいとも貴べる所なれば我國の臣民たらんものは武勇なくては叶ふまじ況して軍人は戰に臨み敵に當るの職なれば片時も武勇を忘れてよかるべきかさはあれ武勇には大勇あり小勇ありて同からず血氣にはやり粗暴の振舞などせんは武勇とは謂ひ難し軍人たらんものは常に能く義理を辨へ能く膽力を練り思慮を彈して事を謀る可し小敵たりとも侮らず大敵たりとも恐れず己が武職を盡さんこゝろ誠の大勇にはあれされば武勇を尚ぶものは常々人に接るには温和を第一とし諸人の愛敬を得んと心掛けよ由なき勇を好み猛威を振ひたらば果は世人も忌嫌ひて豺狼などの如く思ひなん心すべきことにこそ

一　軍人は信義を重んずべし　凡そ信義を守ること常の道にはあれどわきて軍人は信義なくては一日も隊伍の中に交りてあらんと難かる可し信とは己が言を踐み行ひ義とは己が分を盡すをいふなりされば信義を盡さんと思はゞ始より其事の成し得べ

きか得べからざるかを審に思考すべし朧氣なる事を假始に諾ひてよしなき關係を結び後に至りて信義を立てんとすれば進退谷りて身の措き所に苦む事あり悔ゆとも其詮なし始に能く〳〵事の順逆を辨へ理非を考へ其言は所詮踐むべからずと知り其義はとても守るべからずと悟りなば速に止るこそよけれ古より或は小節の信義を立てんとて大綱の順逆を誤り或は公道の理非に踐迷ひて私情の信義を守りあたら英雄豪傑どもが禍に遭ひ身を滅し屍の上の汚名を後世まで遺せること其例し尠からぬものを深く警めでやはある可き

一　軍人は質素を旨とすべし　凡そ質素を旨とせざれば文弱に流れ輕薄に趨り驕奢華靡の風を好み遂には貪汚に陷り志も無下に賤しくなり節操も武勇も其耳斐なく世人に爪はじきせらるゝ迄に至りぬべし其身生涯の不幸なりと云ふも中々愚なり此風一たび軍人の間に起りては彼の傳染病の如く蔓延し士風も兵氣も頓に衰へぬべきこと明なり朕深く之を慮れて曩に免黜條例を施行し略此事を誡め置きつれど猶も其惡習の出でんとを憂ひて心安からねば故に又之を訓るかし汝等軍人ゆめ此訓へを等閑にな思ひそ

右の五ヶ條は軍人たらんもの暫しも忽にすべからずさて之を行はんには一の誠心こそ大切なれ抑も此五ヶ條は我軍人の精神にして一の誠心は又五ヶ條の精神なり心誠ならざれば如何なる嘉言も善行も皆うはべの裝飾にて何の用にかは立つべき心だに誠あれば何事も成るものぞかし況してや此五ヶ條は天地の公道人倫の常經なり行ひ易く守り易し汝等軍人能く朕が訓へに遵ひて此道を守り行ひ國に報ゆるの務を盡さば日本國の蒼生擧りて之を悅びなん朕一人の悅のみならんや

明治十五年一月四日

朕襲ニ陸海軍人ニ宣諭スルトコロ今茲ニ步兵第　聯隊ニ下付ス

明治　年　月　日

御名御璽

讀法

兵隊ハ皇威ヲ發揚シ國家ヲ保護スルタメニ設ケ置カルヽモノナレバ此兵員ニ加ハルモノハ堅ク左ノ條件ヲ守リ違背スベカラズ

第一條　誠心ヲ本トシ忠節ヲ盡シ不信不忠ノ所爲アル可ラザルコト

第二條　長上ニ敬禮ヲ盡シ等輩ニ信義ヲ致シ粗暴倨傲ノ所爲アル可ラザルコト

第三條　長上ノ命令ハ其事ノ如何ヲ問ハズ直ニ之ニ服從シ抵抗干犯ノ所爲アル可ラザルコト

第四條　膽勇ヲ尚ビ軍務ニ勉勵シ恐怯柔懦ノ所爲アル可ラザルコト

第五條　血氣ノ小勇ニ誇リ爭鬪ヲ好ミ他人ヲ侮慢シ世人ノ厭忌ヲ來ス等ノ所爲アル可ラザルコト

第六條　道德ヲ修メ質素ヲ主トシ浮華文弱等ニ流ルヽノ所爲アル可ラザルコト

第七條　名譽ヲ尚ビ廉耻ヲ重ンジ賤劣貪汚ノ所爲アル可ラザルコト

以上掲グル所ノ外法律規則ニ違犯シ罪ヲ國家ニ得ルニ至リテハ父祖ヲ辱カシメ家聲ヲ汚シ醜ヲ後世ニ遺シ獨リ其身現在ノ恥辱ノミナラズ況ンヤ重罪ノ如キハ各人天賦ノ公權ヲモ剝奪セラレ世ニ立チ人ニ接ルモ總テ對等ノ權利ヲ得ザルニ至ルニ於テヲヤ名譽ヲ尚ビ廉恥ヲ重ンズルノ軍人ニ在リテハ殊ニ戒愼ヲ加ヘザル可ラズ

就中陸軍刑法ハ軍隊ノ害ヲ爲スモノヲ懲ス爲メニ特ニ設ケラルヽモノナルヲ以テ其刑亦頗ル嚴ナリ軍人ニシテ之ヲ犯セバ啻ニ本分ヲ誤リ軍隊ノ安寧ヲ害スルノミナラズ遂ニ世人ノ信用ヲ損ジ陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等其責更ニ重シ平素自ラ戒愼シ決シテ違犯スベカラズ

軍隊內務書摘要

一　從卒トハ如何ナルモノカ

將校ノ兵器被服等手入ヲナシ傳令勤務ニ任ズルモノヲアリマス

二　從卒ニハ如何ナルモノガ撰拔セラルヽカ

品行方正勤務勉勵技藝熟達ノモノガ撰拔セラレマス

三　從卒營外ニ出ヅル場合ニハ如何ナル證ヲ持チ行クヤ

從卒ノ鑑札ヲ持チ行キマス

四　軍旗護衛兵トハ如何ナルモノカ

軍旗ノ室外ニ出ヅルトキ護衛スル重任ヲ帶ビル者デアリマス

五　非常呼集、臨時呼集及火災警備ノ件軍旗護衛兵ハ如何ニスルヤ

非常呼集及臨時呼集ニアリテハ一般兵卒ト同樣ノ服裝ヲナシ聯隊本部前ニ至リ命ヲ待チマス火災ノトキハ銃器ヲ携ヘ聯隊本部前ニ行キマス

陸軍刑法及懲罰令ノ摘要

一　如何ナル罪ハ陸軍刑法ニヨリ罰セラルヽヤ

反亂、抗命、暴行、侮辱、違禮、逃亡、詐僞、結黨等ノ罪デアリマス

二　反亂トハ如何

軍人申合セ兵器ヲ以テ亂ヲナシ又ハ敵ノタメニ利益ヲ圖リタル類デアリマス

三　抗命トハ如何

上官ノ命令ニ抗シ服從セザルコトデアリマス

四　暴行トハ如何

上官若シクハ哨兵ニ對シ暴行ヲナシ又ハ多人數申合ハセ歐打爭鬪スル類デアリマス

五　侮辱トハ如何

上官哨兵等ヲ罵詈侮慢シ又ハ演說文書等ニテ上官ヲ誹謗ル等デアリマス

六　違禮トハ如何

哨兵ニ對シ哨禮ヲ犯シ又ハ哨兵ノ守地ヲ離レ若シクハ睡眠シタルモノ軍機ヲ漏ラシタルモノ徵集ニ後レタルモノ政事ニ關スル類デアリマス

七　逃亡トハ如何

軍人ガ逃ゲテ六日(戰時ハ三日)ヲ過グル類デアリマス

八　詐僞トハ如何

斥候偵察ノ命ヲ受ケ僞リノ報告ヲナシ又ハ傳令使命令ヲ誤リ傳フルモノ及疾病ヲ詐リ身體ヲ毀傷シ兵役又ハ召集ヲ免レントスル等デアリマス

九　結黨トハ如何

軍人黨ヲ結ビ規則命令ノ施行ヲ妨グル等デアリマス

十　如何ナル罪ハ懲罰令ニ依リ罰セラルヽカ

軍人ノ故意、跛虞、懈怠、過失ノ輕犯ニテ刑法ニ該ラザルモノ及素行修マラザルモノ

十一　懲罰令ニ觸レルモノハ如何ナル處分ヲ受ルヤ

故意ノ犯罪ハ重營倉ニ其他ハ輕營倉ニ處セラレマス

十二　懲罰令ニ依リ處分セラルベキ重ナル犯行ハ如何

一　命令ヲ誤リ傳フルモノ

二　歸營時刻歸ラザルモノ若シクハ屯營又ハ本隊ヲ離ルヽモノ

三　他方ヘ趣キ歸ルベキ期日ニ後ルヽモノ

四　召集ノ期ニ後ルヽモノ

五　他人ノ預リ品又ハ借用品ヲ質入スルモノ

六　官物ヲ擅ニ用フルモノ
七　法則命令ヲ遵奉セズ若シクハ之ヲ誹謗スルモノ
八　罵詈侮慢若シクハ逃走スルモノ
九　暴行脅迫スルモノ
十　猥リニ剣ヲ拔クモノ
十一　酩酊シテ事ヲ省セザルモノ
十二　言語所爲詐僞ニ亘ルモノ
十三　疾病事故ニ托シ勤務演習ヲ免レントスルモノ
十四　抗言待頑從順ノ道ヲ失フモノ
十五　犯罪アルヲ知リテ之ヲ曲庇スルモノ
十六　勤務演習集合ノ期ニ後レ若シクハ之ヲ欠ギ若シクハ之ヲ懈ルモノ
十七　服裝法ニ違フモノ
十八　敬禮ヲ欠クモノ
十九　物件ヲ誤毀遺失若シクハ汚損スルモノ
二十　失言過語若シクハ應答ノ事理ヲ過ルモノ

廿一　軍人ノ態度ヲ失フモノ
廿二　素行修マラザルモノ

野外要務令摘要

い　鐵道輸送

一　兵卒ノ乘車ハ如何ニシテ行フヤ

「乘車」ノ號令或ハ「前へ」ノ號音ニテ靜肅ニ順序正シク迅速ニ乘車シマス

二　運行中兵卒ノ注意如何

勝手ニ位置ヲ離ルヽコトハナリマセン又貨車ノ入口或ハ側板上ニ腰ヲ懸クルヿハナリマセン馬匹芻抹及彈藥其他火災ノ慮アル品物ヲ載セタル車ノ中ニテハ煙草ヲ喫ミ又擅ニ點火ハ出來マセン

三　下車ハ如何ニシテ行フヤ

戸ヲ開クモ「下車」ノ號令若クハ「前へ」ノ號音ガナケレバ下車スルヿハナリマセン

ろ　船舶輸送

一　兵卒乘船セバ如何ニスルヤ

各自ノ座席ニツキ銃ハ劍ト共ニ坐側ニオキ背嚢ハ之ヲ結束シテ枕ニスル如クオキマ

ス但シ外套ハ常ニ結束シアルヲ要セズ使用セザルトキハ之ヲ疊ミ背嚢ノ上ニヲキマス、運輸通信官等ノ檢査ヲ終ル迄デハ背嚢等ヲ開クヿハ出來マセン

二　船中風紀衛兵ノ任務ハ如何

一般風紀軍紀ヲ維持スル外殊ニ火災及清潔ヲ警ムルニアリマス

三　船中ニテ守ルベキ要件如何

一　マッチ、燧石等ノ發火器ヲ携帶セザルヿ

二　喫煙、飲食、鹽嗽等ハ必ズ指定ノ場所ト時間トニ於テシ又船内ヲ汚サヾルヿ

三　清水ノ使用ヲ節約スルヿ

四　船橋或ハ前樓ニ昇リ鍛冶室、機關室、及庖厨ニ入リ又羅針盤ノ周圍及階段ノ近傍ニ立タザルヿ

四　失火、坐礁、衝突等ノ場合ニハ如何ニスルヤ

極メテ整肅ニ指定ノ位置ニアリテ船員ノ働作ヲ妨碍セヌヿガ緊要デアリマス

唯輸送指揮官ヨリ殊ニ命ゼラレタル者丈ケ船員ヲ助ケマス

五　船舶上陸地ニ投錨スル前兵卒ノ注意ハ如何

上陸ノ準備ヲナスモ濫リニ其位置ヲ去ルコトハナリマセン

一　私ニ燈火ヲ點シ又ハ所定ノ燈火ヲ他ニ持チ行カザルヿ

は　憲兵ニ對スル心得

一　軍人ノ憲兵ニ對スル關係ハ如何

其關係ハ衛兵ニ同ジキモノデアリマスカラ若シ其勤務ニ對シ之ヲ愧カシメ若クハ罵詈抵抗スルトキハ其罰ノ重キコト衛兵ニ對スルト同ジコトデアリマス

二　憲兵ノ訊問及指示ニ對スル心得如何

氏名、所屬部隊、行クベキ方向、及其目的等必ズ詳細及信實ヲ以テ答ヘヲバナリマセン又憲兵ノ示ス規律ニハ服從セヲバナリマセン假令信服シ難キヿアルモ其事止ンデ後順序ヲ經テ申出デマス

三　憲兵ヨリ援助ヲ乞フ時ハ如何ニスルヤ

之レニ應ゼヲバナリマセヌ

射擊教範摘要

一　二等射手ノ各習會ニ合格シタル者ハ如何ニ昇級スルヤ

一等射手ニ進ミマス尚未熟ノ者ハ昇級ヲ許サレンヿモアリマス

二　兵卒ニシテ特別射手トナルモノハ如何ナルモノナルヤ

一等射手ノ徽章ヲ得タルモノニ限リマス

第三篇

在郷軍人心得

一　在郷軍人ニ心得ベキ要項ハ如何

一　天皇陛下ニ對シ奉リテ忠節ヲ盡スコトハ寸時モ忘レテハナリマセン

二　戰時若クハ事變ノ時ハ勿論復習ト雖モ召集ノ命令アレバ速ニ集合シマス

三　豫備役、後備役中モ在營ノ心得ヲ以テ地方ノ法律ハ勿論陸軍法令ヲ嚴重ニ守リマス

四　軍人ハ一般人民ノ手本トモナルベキモノナレバ粗暴ノ振舞破廉恥ノ所業ナク孝悌ヲ守リ衆人ニ敬愛セラルヽ樣常ニ心懸マス

二　豫備役、後備役、補充兵役ハ何年ナルヤ

豫備役ハ四年四ケ月後備役ハ十ケ年補充兵役ハ十二ケ年四ケ月デアリマス

三　後備役、補充兵役ヲ終レバ兵役ノ義務ナキカ

年齡四十歲迄ハ國民兵役トシテ兵役ニ服シマス

四　兵役ノ期限ハ變更セラルヽナキカ

各兵役ノ期限ガ滿ツルモ戰時若クハ事變ニ際シ又ハ臨時ニ演習若クハ觀兵ノ舉アルトキ又ハ航海中ハ延期セラルヽアリマヌ

五　犯罪ノタメ又ハ正當ノ事由ナク召集ヲ缺キタルトキハ其年ハ服役年期ニ算スルヤ

算入セラレマセン

六　勤務演習簡閲點呼ニ召集セラレザルモノハ如何ナルモノカ

法律ヲ以テ設立スル議會ノ議員其開會中文官ニ任ゼラレ他人ヲ以テ代ユベカラザル職務ヲ奉ズルモノ外國ニアルモノ及ビ市町村助役、收入役デアリマス

七　充員召集ヲ猶豫セラルヽモノハ如何ナルモノカ

文官ニ任ゼラレ若クハ公吏トナリ他人ヲ以テ代ユベカラザルモノヽ又ハ運輸其他ノ業ニ從ヒ戰役ニ關シ必要ノ職務ヲ取ルモノデアリマス

八　召集ニハ如何ナル種類アルヤ

充員召集、補充召集、國民兵召集、演習召集、教育召集、及補缺召集デアリマス

九　召集ニ應ズルモノ私設鐵道又ハ日本郵船會社若クハ大阪商船會社所有ノ流船ニ乘ルトキハ如何スルヤ

令狀又ハ他ノ證明トナルベキモノヲ役員ニ示ストキハ滊車ハ半額滊船ハ二割引ニテ乘レマス

十　故ナク召集ノ期日ニ後ルレバ如何ナル處分ヲ受クルヤ

十日ヲ過グルモノ（戰時ハ五日）ハ陸軍刑法ニ依リ處分セラレマス

十一　充員召集ノ令狀又ハ通報ヲ受ケタルモノハ如何スルヤ

令狀ヲ携ヘ指定ノ時日ニ到着地ニ就キ召集事務所ヘ屆ケ出デマス但シ出發ノ片軍隊手牒、勳章、記章、適任證書、印形、私服結束ノタメ風呂敷麻繩及ビ住所氏名ヲ記シタル木札ヲ携ヘマス又豫メ應召ノ片ハ留守擔當者ヲ定メオキマス

十二　應召者旅行中等ニテ令狀ヲ受取ロフトスレバ到着ノ遲クナル塲合ニハ如何スルヤ

令狀ヲ携ヘルニ及ビマセン併シ其旨ヲ速ニ召集通報人ニ知ラセ令狀ヲ送ツテモライマス

十三　應召者ニシテ指定ノ時日ニ到着スル能ハザルトキハ如何スルヤ

所在地ノ憲兵又ハ警察官吏ニ就キ其通報ヲ受ケタル時日及出發時日ノ證明書ヲ受ケ到着ノ上召集事務所ニ屆ケ出直チニ召集部隊ニ行キマス

十四　召集旅費ヲ受取ルニハ如何スルヤ

出納官吏ニ令狀ヲ示シ出納官吏ノ許ニアル受領書ニ捺印シマス併シ拇印デモ宜クアリマス代人デ旅費ヲ受取ルニハ其委任狀ニ召集部隊及到着地ヲ記入シマス

十五　令狀又ハ通報ヲ受取ルトキ症痍疾病ノタメ應召スル「能ハザル者ハ如何スルヤ

受取リシ後二十四時間内ニ聯隊區司令官ノ屆書ニ醫師ノ診斷證書及令狀ヲ添ヘ本籍地市町村長ニ差出マス但シ寄留又ハ旅行先キヨリ屆ケ出ルトキハ本籍地市町村長ニ宛テ送リマス○令狀又ハ通報ヲ受取リシ後出發マデノ間ニ傷痍疾病ノタメ應召スル「能ハザルニ至ツタモノモ直ニ前ノ手續キヲシマス○前ノ手續ヲナストキ未ダ令狀ヲ受取リ居ラザルトキハ受取リシ後別ニ之ヲ差出シマス○但シ以上ノ事故止ミタルトキハ市町村長ニ屆出デ差圖ヲ受ケマス

十六　召集部隊ニ至ル途中事故アリテ到着ヲ遲延スルノ慮アルトキハ如何スルヤ

傷痍疾病ナレバ直チニ醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ召集部隊長ニ屆出デ出發スル「ヲ得ルニ至レバ速カニ到着ノ上召集事務所ニ屆出マス若シ他ノ事故假令バ流行病ノタメ交通遮斷道路破壞等ナレバ其地ノ郡長市町村長、憲兵、警察官吏、船長又ハ驛長ノ證明書ヲ受ケ到着ノ上召集事務所ニ屆出マス何レノ塲合ニテモ若シ集合所ニ到着ス

ベキモノナレバ直チニ召集部隊ニ行キマス

十七　途中滞在又ハ醫藥ヲ要シタルトキハ費用ハ支給セラルヽヤ

其費用ノ受領書ヲ求メ到着ノ上召集事務所ニ屆出ヅレバ支給セラレマス

十八　召集部隊ニ至ル途中非常事變假令ヘバ兇徒嘯集又ハ敵軍ノ上陸等ニ依リ交通遮斷シタルタメ到着地ニ到着スル能ハザルトキハ如何スルヤ

其旨ヲ最寄諸部團隊長ニ屆出デマス諸部團隊ナキ地ニテハ郡長市町村長憲兵又ハ警察官吏ニ屆出デマス○到着地ニ向ヒ出發シ得ル時ニ至レバ証明書ヲ受ケ召集部隊ニ行キマス

十九　召集通報人（該人不在ノトキハ其戸主又ハ家族中家事ヲ擔當スルモノ）令狀ヲ交附セラレタルトキハ如何スベキヤ

受領證ニ受領シタル月日ヲ記入シ記名捺印シテ直チニ之ヲ使ニ返シマス而シテ直チニ確實迅速ナル方法ニテ召集部隊到着地及到着時日ヲ手紙ニテ本人ニ知ラシ其令狀ヲ速ヤカニ交附スルノ處置ヲナシマス遠キトキハ（電報近ケレバ使）若シ所刑又ハ所在不明ノタメ應召スル能ハザル等ノ場合ハ令狀受領後二十四時間内ニ屆書ニ令狀ヲ添ヘ憲兵又ハ警察官ノ證明書ヲ附シ本籍地ノ市町村長ニ差出シマス

二十　事故ニヨリ歸鄕ヲ命ゼラレタルモノ及ビ復員ニヨリ召集解除ヲ命ゼラレタルモノハ如何スルヤ

事故歸鄕屆又ハ召集解除歸鄕屆ヲ聯隊區司令官ニ差出シマス若シ召集ニ應ズル前ノ寄留地ニ歸ルモノハ本籍聯隊區司令官ニ差出ス屆書ニハ寄留地市町村長ノ證明ヲ受ケヲバナリマセン

廿一　國民兵召集ニハ如何スルヤ

國民兵召集ハ召集令狀ヲ用ヒズ召集令ニテ達セラルヽモノナレバ此達シヲ受ケタルトキハ市町村長ヨリ指定ノ時日場所ニ於テ其引卒ヲ受ケマス

廿二　演習召集ハ何回行ハルベキヤ

豫備役一二等卒補充兵ハ服役中各二回（豫備役兵第二年第四年補充兵ハ第三年第五年）復習ノタメ軍隊ニ召集セラレマス

廿三　兵卒ノ演習召集ノ日數ハ如何

豫備兵及補充兵ハ三週間デアリマス○秋季演習ノ際召集セラルヽモノハ更ニ二週間以内增加セラルヽモアリマス

廿四　疾病事故等ノタメ演習召集ニ應ゼザルモノハ如何ナスヤ

其次年ニ於テ召集セラレマス召集ニ應ジタルモ傷痍疾病ノタメ應召當日歸郷ヲ命ゼラレタルモノモ亦同様デアリマス○豫備役第四年ニ於テ疾病ノタメ召集ニ應ゼズシテ後備役ニ轉入シタルモノハ後備役第一年ニ於テ召集セラレ此者ニ限リ後備役中三回ノ召集ヲ受ケマス

廿五　事故ノタメ演習召集ニ應ズル能ハザルモノハ如何スルヤ

本人又ハ本人ニ代リ令狀ヲ受ケタル者ヨリ到着日時迄ニ其屆書及ビ其令狀ヲ市町村長（寄留地ニ於テ召集ニ應ズベキ許可ヲ受ケタルモノニアリテハ寄留地市町村長）ニ差出シマス若シ其事故止ミタルトキハ直チニ市町村長ニ屆出デ差圖ヲ受ケマス○未ダ令狀ヲ受領セザルモノハ受領後別ニ之ヲ出シマス

廿六　演習召集ニ應ズベキモノニシテ父母ノ疾病危篤又ハ死亡ノタメ召集ヲ延期セラルヽアリヤ

願書ヲ市町村長（寄留地ニ於テ召集ニ應ズベキ許可ヲ受ケタルモノハ寄留地市町村長）ニ差出ストキハ許サレマス

廿七　簡閲點呼ハ何回行ハルベキヤ

毎年一回行ハレマス

廿八　簡閲點呼ニ參會スルモノニハ旅費ヲ給セラルヽヤ

給セラレマセン

廿九　簡閲點呼令狀又ハ參會ノ通牒ヲ受ケタルモノハ如何スルヤ

指定ノ時日ニ點呼場ニ到着シ簡閲點呼執行官ニ屆出デマス

三十　簡閲點呼ニ參會スルモノヽ注意如何

一　令狀及軍隊手牒ヲ携フルヿ

二　服裝（成ル可ク軍服）ヲ整ヘ容儀ヲ正シクスルヿ

三　指定ノ時間ヨリ若干時前ニ參會スルヿ

四　遲參ノタメ點呼ヲ終ラザルトキハ更ニ他ノ點呼場ニ參會ヲ命ゼラルヽヿ

五　簡閲點呼執行官ノ意圖命令ニ反スルモノハ處分セラルヽヿ

卅一　簡閲點呼令狀又ハ參會ノ通牒ヲ受ケタルモノニシテ事故ノタメ參會スルヿ能ハザルモノハ如何スルヤ

本人又ハ本人ニ代リ令狀ヲ受ケタルモノヨリ參會時日マデニ簡閲點呼執行官ニ宛テタル屆書及其令狀ヲ市町村長寄留地ニ於テ參會ノ許可ヲ受ケタルモノハ寄留地市町村長ニ差出シマス○此屆書ヲ怠ルトキハ處分セラレマス

冊二　現役滿期、歸休、若クハ召集ヲ終リ歸鄉ヲ命ゼラレシモノ如何スルヤ

七日以内ニ衛戍地ヲ出發シ一日行程十二里詰ヨリ少カラザル日數ニ歸鄉シ七日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出マス

一　寄留地ニテ筒閲點呼ヲ受ケントスルニハ如何スルヤ

其地ニテ點呼ノ始マル三十日前ニ願出ヲ為ハナリマセヌ

冊三　退營後衛戍地若クハ其他ノ地ニ八日以上滯在若クハ寄留セントスルモノハ如何スルヤ

其出發期日内ニ本籍市町村長ニ於テ召集ノ令アル場合之ヲ通報スベキ二十歳以上ノ男子ヲ定メオキ聯隊區司令官ニ屆出デマス但シ徵兵令ニヨリ徵集セラレタル者ヲシテ定時ニ豫備役ニ編入セラレタルモノハ市町村長ニ屆出マス

冊四　在鄉中十四日以上旅行又ハ寄留セントスルニハ如何スルヤ

召集ノ命アル場合之ヲ通報スベキ者ヲ定メ聯隊區司令官ニ屆出デマス

冊五　兵籍上異動ヲ生ゼバ如何スルヤ

十四日以内ニ聯隊區司令官ニ屆出マス若シ他聯隊區ニ戸籍ヲ移シタル場合ニハ兩方ニ屆出デマス

冊六　在鄉中如何ナル場合ニ制服「帶劍ヲ除ク」ヲ着シ得ルカ

滿期歸鄉ノトキ

召集若クハ館閲點呼ノトキ

演習及觀兵式參觀ノトキ

賀儀葬式ノトキ

其他在鄉軍人ノ資格ヲ表スルトキ

冊七　傷痍疾病ニヨリ永ク服役ニ堪ヘント思ヒシトキハ如何ニスルヤ

陸軍醫官ノ診斷書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ聯隊區司令官ニ屆出マス

冊八　在鄉軍人ノ願屆ハ何處ニ出スヤ

市町村長ヲ經由スルモノデアリマス

徵集令狀ノ雛形

（うらをみよ）

表面

一 用紙ハ適宜ニシテ紅色トス
二 字及番地ハ必要ニ應ジ記入スルモノトス

七寸五分（曲尺）

一何月何日何隊ヘ召集ノ何（隊ヘ召集ノ爲何月何日何集合場ヘ到着スベキ）充員（補充）召集令狀

右受領ス

明治　年　月　日午前後　時　分

兵役官（兵種等級第何補充兵）何　某印

召集通報人其ノ他本人ニ代リ受領シタル者ハ左ニ署名捺印ヲ爲スベシ

何聯隊區司令部御中

四寸五分（曲尺）

四寸（曲尺）

充員（補充）召集令狀

何府縣郡市町村

兵役官（兵種等級）

（第何補充兵何兵）何　某

右充員（補充）ノ爲何部隊（召集ヲ命ゼラル明治何年何月何日午何時（午前八時ヨリ午後四時）迄ニ何地ニ到着シ此ノ令狀ヲ以テ當該部隊（集合場）召集事務所ニ屆出ヅベシ

但何月何日午何時何分何驛（何港發ノ氣車氣船）ニ乘ルベシ

何聯隊區司令部印

召集ニ應スル爲氣車氣船ニ乘ルベキモノハ指定ノ日時場所以外ニ於テハ（乘車乘船）ノ準備無キヲ以テ注意スベシ

乘車（乘船）切符ヲ求ムルトキ及乘車（乘船）スルトキハ此ノ令狀ヲ係員ニ示スベシ

五寸（曲尺）

三 到着地ハ何市何區何町又ハ何國何郡何町村ノ何所ト詳密ニ記載スベシ
四 但書及欄外記註ハ一例ヲ示シタルニ過ギズ聯隊區司令部ニ於テ必要ト認メタル事項ヲ記スベキモノトス

裏面

召集旅費金何圓何拾錢

右何所ニ於テ支給ス依テ此ノ令狀ヲ係員ニ示シテ受領スベシ代人ヲシテ受領セシムルトキ爲シ得レバ其委任狀中ニ召集部隊及到着地ヲ記入スベシ

一 色ハ適宜トス
二 聯隊區司令部ニ於テハ令狀裏面ニ應召員及應召員ニ代リ令狀ヲ受領スベキ者ノ必得トナルベキ事項ヲ記入スルコトヲ得

兵卒教科書 終

258
1025

明治四十年十月三十一日印刷
明治四十年十一月十日發行
明治四十一年十二月十五日訂正再版印刷
明治四十一年十二月二十日訂正再版發行

定價 金拾五錢
（郵税金貳錢）

鳥取市立川町壹丁目九十七番屋敷
編輯兼發行者 金居小太郎

鳥取市立川町壹丁目九十七番屋敷
發行所 金居堂

大阪市東區唐物町五丁目座摩ノ前
印刷所 合資會社 出村豐盛堂分工場

版權所有